

第十三條 投票開票審査ノ後高票者ヲ以テ當選人ト定メ取締ニ於テ曹洞宗務局ニ上申シ任命ヲ請フヘシ

第十四條 組長ノ任期ハ辭令ノ日附ヨリ滿三箇年トス

臨時選舉ニ依リ就任シタル組長ノ任期モ亦前項ノ規定ニ依ル

第十五條 組長ハ其當選ヲ辭スルコトヲ得ス次點者ニ於テ其就任ヲ承諾シタル時ハ此限ニ在ラス

第十六條 組長就任期中左ノ事項アル時ハ別ニ解免ノ式ヲ用非ス其資格ヲ消滅ス

一 死亡ノ時

二 住職ヲ退隱シタル時

三 組合外ヘ轉住ノ時

四 宗制宗規ニ觸レテ處分セラレタル時

前各項ノ場合ニ於テハ取締ニ於テ臨時選舉事務ヲ行フ

第十七條 組長疾病ニ依リ職務ヲ行フコト能ハサル時ハ取締ニ具申シテ臨時選舉ノ命令ヲ請ヒ後任組長定マルノ時辭任スルコトヲ得

第十八條 組長任期期限滿一箇月以前ニ於テ後任組長ノ選舉ヲ行フ

第十九條 組長ハ再選ニ依リ幾回ニテモ繼勤スルコトヲ得

第四章 組長ノ職務

第二十條 組長ハ其組合ニ於テ左ノ職務ヲ行フ

一 曹洞宗務局及曹洞宗務支局ノ諸達書ノ類ヲ傳達スルコト

二 寺院住職前任職徒弟並ニ檀家信徒ヨリ曹洞宗務局及曹洞宗務支局ニ差出スヘキ諸願届伺書ノ類ヲ進達スルコト

三 宗規宗令ノ規定ニ基ケル寺院ノ納金ヲ徵收シテ曹洞宗務支局ニ納附シ及其納金ヲ督促スルコト

四 宗規宗令ノ規定ニ基ケル兩本山又ハ其一本山ニ於ケル各種ノ命令又ハ囑托ヲ傳達スルコト

五 寺院住職前任職並ニ徒弟中宗規ノ違犯者アル時ハ取締ニ具狀スルコト

六 定時又ハ臨時組合會議ヲ開キ宗務ノ舉行ヲ圖ルコト

第二十一條 組長ハ曹洞宗務支局會議ニ出席シ及其決議條件ヲ組合寺院ニ遵行セシム

第五章 組合寺院

第二十二條 組合寺院ハ其組長ノ指揮ニ屬シ及組合會議ノ決議ニ服スヘシ

第二十三條 組合寺院ハ其必要ト認ムル事件ニ對シ組合過半数ノ同意ヲ得テ其組長ニ對シ組合會議ヲ開クノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 組合寺院ハ其組長ニ於テ組合ノ體面ヲ辱カシムルノ行爲アリト認ムル時ハ組合寺院過半

數ノ同意ヲ得テ取締ニ具狀スルコトヲ得

第六章 雜則

第二十五條 組長ハ曹洞宗務局曹洞宗務支局及組合ノ公金ヲ貸借又ハ使用流用スルコトヲ得ス若シ犯シタル者ハ宗制宗規ニ依テ處分シ及民法刑法ノ制裁ニ依ル

第二十六條 此規程ノ實施期限ハ宗令ヲ以テ之ヲ定ム

乙第七號明治三十四年十一月二十八日

北海道各府縣宗務支局

今般當局甲第四十號普通ヲ以テ曹洞宗務支局管内寺院組合規程ヲ制定發布セシニ付該施行手續左ノ通相定ム

右示達ス

曹洞宗務支局管内寺院組合規程施行手續

第一條 新設各曹洞宗務支局取締ハ來ル明治三十五年一月十日就任ノ後左ノ順序ニ依リ直ニ曹洞宗務支局管内寺院組合規程ヲ履行スヘシ

一 取締ハ組合規程第六條ニ依リ其支局管内組合ノ成立區畫ヲ定メ組合規程第七條ニ依リ來ル明治三十五年一月十五日限り適宜ノ方法ヲ以テ支局會議ヲ開キ之ヲ決定スルコト

二 取締ハ前項ノ決定ト同時ニ組合規程第八條ニ依リ各組合ノ名稱番號ヲ定ムルコト

三 取締ハ組合成立番號設定ノ後直ニ組合規程第九條ニ依リ各組合寺院住職ヲシテ組長ヲ選舉セシメ來ル明治三十五年一月二十日限り其支局へ届出サシムルコト

但監事ヲ組長ニ選舉セシムルコトヲ得ス

第二條 取締ハ前條ノ手續ヲ履行シタル時ハ來ル明治三十五年一月廿一日ヲ以テ豫メ曹洞宗務局ヨリ交附セル用紙ニ其管内各組合名稱番號各組内寺院ノ市郡町村字寺號寺格等級住職姓名及組長姓名ヲ記入シ即日曹洞宗務局へ届出ツヘシ

第三條 組合組長ハ各届出ノ後管長ヨリ辭令ヲ下附セラレヘキモ既ニ選定届出ノ上ハ今回限り辭令受領ニ先ダテ組合規程第二十條第一項乃至第四項ノ宗務ヲ執行スヘシ

第四條 新設ノ宗務制度ハ概シテ區域狹少寺數僅少ニシテ郵便及集會ノ便利ヲ有スルヲ以テ諸般前數條ノ期限内ニ取運ヒ得ヘシト雖モ若シ島地又ハ積雪等ノ爲メ止ムナク其手續ヲ遅延セシムルノ場合ニ於テハ豫メ期日ヲ定メ曹洞宗務局ニ届出テ許可ヲ受クヘシ決シテ無手續ノ儘等閑ニ付スヘカラズ

第五條 取締ハ組合規程第三條第四條ニ依リ組合ヲ設定セサル向ト雖モ第二條ノ期限内ニ其直轄ニ係ル寺院ノ市郡町村字寺號寺格等級住職姓名ヲ曹洞宗務局ニ届出ツヘシ

第六條 従前設置ノ組合及組長ナルモノハ組合教區何號組何番第何番講社組長組頭幹事管事年番等區々ノ名稱ヲ用イタルトモ今般組合制度ノ新設ト共ニ組合ハ總テ第一組、第二組、等ト稱シ其宗務執行者ハ總テ組長ト稱セシムヘキニ付向後稱呼及書類調製ノ際此點ニ注意スヘシ

第七條 前條ノ組合番號ハ一支局下總テ通番號ヲ以テスヘシ例セハ甲第一組、乙第一組、等區々ノ公稱ヲ設クルヲ許サス

○

甲第四十一號 明治三十四年十一月二十八日

全國末派寺院

本年當局甲第十八號普通曹洞宗議會規程中左ノ通之ヲ改定ス

- 一 第三條「滿三年毎ニ一回」ヲ「毎年」ト改ム
 - 二 第十三條「曹洞宗議會ニ於テ豫算成立セサルトキハ」ノ下全文ヲ削除シ「兩本山ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ」ト改ム
 - 三 第十八條「三」ヲ「一」ト改ム
 - 四 第二十七條全文ヲ削除ス
 - 五 第二十八條ヲ第二十七條ト改ム
- 右普通ス

甲第四十二號 明治三十四年十一月二十八日

全國末派寺院

今般曹洞宗議會ノ協賛ヲ經テ制定シタル別記曹洞宗布教規程ハ兩本山貫首祝下ノ允可ヲ得タリ依テ本年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

右普通ス

○曹洞宗布教規程

第一章 總 則

- 第一條 曹洞宗兩本山及末派寺院ハ宗風舉揚國民化導ノ目的ヲ貫徹スル爲メ全國一般ニ布教傳道ノ業務ヲ舉行ス
- 第二條 北海道臺灣島高知縣鹿兒島縣ノ布教及軍人ノ布教監獄ノ布教ハ各別ニ定ムル所ノ規定ニ依ル
- 第三條 兩本山ハ貫首親ヲ地方ヲ巡化シ及巡教師ヲ派遣シテ布教ニ從事セシメ本派寺院ハ各自ニ其權徒信徒ノ化導ニ從事シ各其實ニ任ス
- 第四條 布教ノ標準ハ曹洞教會修證義ニ依遵シ化導ノ畫一ヲ紊スヘカラス
- 第五條 兩本山ノ布教ニ關スル事務ハ曹洞宗務局之ヲ總管シ各府縣曹洞宗務支局ヲシテ之ヲ分掌セシム
- 第六條 末派寺院ノ布教ニ關スル事務ハ曹洞宗務局之ヲ監督シ各府縣曹洞宗務支局ヲシテ之ヲ管理セシム

シム

第二章 貫首親化

第六條 兩本山貫首親化ハ管長非番ノ貫首兩本山ヲ代表シ毎年之ヲ行フモノトス

第七條 親化區域ハ全國ヲ十分シ其一分ヲ一箇年ノ親化區ト爲ス

第八條 親化ノ指定區域及期限ハ三箇月以前ニ宗令ヲ以テ告達ス

第九條 教場ハ五十箇寺以內ニ一箇所ヲ設ク一教場ノ親化日數ハ二晝夜以上七晝夜以內トス

第十條 親化中特志ヲ以テ教場ヲ開設セント希望スル者ハ法類組寺及檀家總代又ハ信徒總代連署シ管

轄曹洞宗務支局ヲ經由シテ曹洞宗務局ニ願出ツヘシ

巡錫ノ通路ニ當リ休泊又ハ臨時親化ヲ請願スル者ハ豫メ隨行長ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 親化區域ノ各曹洞宗務支局ハ第八條ノ告達ニ依リ首先親化ノ一箇月以前ニ第九條第十條ニ

準スル教場ノ位置及聯合寺院住職又ハ監寺ノ姓名并ニ巡錫ノ順路ヲ詳記シ曹洞宗務局ニ上申スヘシ

第十二條 親化隨行員ハ左ノ如シ

隨行長 一人

隨行員 二人

侍 掌 一人

第十三條 隨行長ハ寺院僧侶及檀徒信徒等ニ於テ特殊ノ善行者アル時ハ貫首ノ命ヲ受ク其狀況ヲ監査

シ兩本山ノ名ニ於テ賞典ヲ舉行ス

第十四條 隨行長ハ寺院僧侶又ハ檀徒信徒中ニ不貞ノ行爲ヲ以テ布教ヲ妨害シ又ハ其本分ヲ盡サハル

者アル時ハ曹洞宗務局ニ具狀シ處分ヲ要求スルコトヲ得

第十五條 親化中ハ第十三條及第十四條ニ關スル事項ノ外一切ノ宗務ヲ聽斷スルコトナシ

第十六條 兩本山貫首事故アル時ハ臨時代理ヲシテ巡化セシメラルモノトス

第三章 布教師巡教

第十七條 兩本山ハ毎年二回布教師ヲ特派シ府縣全體ヲ巡回布教セシム

第十八條 布教師ノ員數ハ五十人トス時宜ニ依リ増減スルコトアルヘシ

第十九條 布教師巡回ノ期日及布教師ノ姓名並ニ巡回ノ區域ハ三箇月以前ニ宗令ヲ以テ之ヲ告達ス

第二十條 教場ハ寺院及檀徒信徒ノ稀疎稠密ヲ圖リ毎回三箇寺以上五箇寺以內ニ一箇所ヲ設クヘシ一

教場ノ布教日數ハ一晝夜以上三晝夜以內トス

第二十一條 教場ハ毎回轉換ヲ要ス但已ムヲ得サル地方ハ此限ニ在ラス

第二十二條 布教師巡回中特志ヲ以テ教場ヲ開設セント欲スル者ハ二箇月以前ニ管轄曹洞宗務支局ヲ

經由シテ曹洞宗務局ニ願出ツヘシ但巡回ノ通路ニ當リ休泊又ハ前程ニ支吾ナキ場合ニ於テ布教ヲ請

願スル者ハ此限ニ在ラス

第二十三條 各府縣曹洞宗務支局ハ第二十條乃至第二十二條ニ依リ其管内ノ教場及布教日數並ニ巡回ノ順路ヲ詳記シ布教師巡回ノ五十日以前ニ曹洞宗務局ニ上申スヘシ

第二十四條 曹洞宗務局ハ前條各支局ノ上申ニ依リ更ニ布教師巡教ノ日限及巡路ヲ定メテ之ヲ各支局ニ告示ス各支局ハ之ヲ管内寺院一般ニ示達スヘシ

第二十五條 前條布教師巡回ノ日限決定シタル時ハ教場組合ノ各組ハ之ヲ檀徒信徒ニ通知シ必ス教場ニ參集セシムルコトヲ要ス

第二十六條 布教師ノ隨行員ハ各府縣曹洞宗務支局ニ於テ適當ノ人器ヲ撰任シ其教區内巡回中布教師ニ隨從セシム

第二十七條 布教師ハ寺院僧侶及檀徒信徒等ニ於テ特殊ノ善行者アル時ハ其事狀ヲ詳述シ曹洞宗務局ニ報告スヘシ

第二十八條 布教師ハ寺院及檀徒信徒等ニ於テ非常ノ災害ニ罹リタル者アル時ハ兩本山ノ命ヲ承ケ特ニ慰問使ヲ兼ヌルコトアルヘシ

第二十九條 布教師ハ寺院僧侶又ハ檀徒信徒中ニ不良ノ行爲ヲ以テ布教ヲ妨害シ又ハ其本分ヲ盡サザル者アル時ハ曹洞宗務局ニ具狀シ處分ヲ要求スルコトヲ得

第三十條 布教師ハ曹洞宗務局ヨリ特ニ囑托ヲ承ケタル事項ヲ除キ他ノ宗務ニ關係スルコトヲ得ス

第四章 寺院布教

第三十一條 未派寺院ハ毎月一回以上各自ニ教筵ヲ開キ其檀徒及信徒ヲ化導スヘシ但土地ノ狀況ニ依リ止ムヲ得サル場合ハ一箇年ヲ通シテ十二回以上ト爲スモ妨ケナシ

第三十二條 前條ノ教筵ニハ組合寺院相互ニ隨喜會同スベシ

第三十三條 檀徒又ハ信徒ノ葬祭其他佛事ノ請ニ赴ク時ハ適宜ノ時間ヲ定メ必ス説教ヲ修行スヘシ

第三十四條 檀徒又ハ信徒ノ多衆遠隔ノ地域ニ在ル寺院ハ毎月一回以上必ス出張説教ヲ修行スヘシ

第三十五條 元始祭孝明天皇祭祀元節神武天皇祭天長節及春秋二季皇靈祭並ニ二祖三佛忌兩祖降誕日各寺開山忌等ニハ必ス特別ニ教筵ヲ開キ説教ヲ修行スヘシ時宜ニ依リ之ニ月次ノ例會ヲ兼ヌルコトヲ得

第三十六條 未派寺院ハ各自ニ布教年報ヲ調製シ教筵開設ノ度數參詣聽衆ノ員數自他説教師ノ姓名ヲ詳記シ毎年六月十二月ノ末日マテニ管轄曹洞宗務支局ヲ經テ曹洞宗務局ニ届出ツヘシ

第五章 罰則

第三十七條 第三條ニ反シ化導ノ盡一ヲ紊亂スル者ハ宗内徘徊停止以上宗内排斥以下ノ範圍ニ於テ懲誠處分ニ附ス

第三十八條 兩本山貫首ノ親化又ハ兩本山布教師ノ巡教ヲ阻礙スル者ハ譴責以上住職罷免以下ノ範圍

ニ於テ警誠處分ニ附ス

第三十九條 第三十一條及第三十六條ニ反シ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲ス者ハ確實又ハ徘徊停止ノ警誠處分ニ附ス

第六章 附則

第四十條 曹洞教會未設立ノ寺院ハ成規ノ手續ニ依リ此規程施行後三箇月内ニ之ヲ設立シ曹洞宗務局ノ許可ヲ受クヘシ

第四十一條 従前各種ノ講名ヲ設ケ檀徒信徒ヲ團結スル者ハ之ヲ曹洞教會ニ編入スヘシ但講名ノ存置ヲ要スル者ハ曹洞教會某講ト稱スルコトヲ得

第四十二條 兩本山貫首親化及兩本山布教師巡回ノ經費ハ曹洞宗務局之ヲ支辨シ教場駐錫中ノ經費教場經費 及送迎先導ニ關スル經費ハ其宗務支局管内寺院ノ負擔トス

第四十三條 教場ニ於テ特ニ法要ヲ修行シタル謝儀及第十條第二十二條ニ依リ特請シタル教場ノ經費及謝儀等ハ當該寺院ノ負擔トス

第四十四條 兩本山貫首親化兩本山布教師巡教ノ細則ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第四十五條 此規程ノ施行期日ハ宗令ヲ以テ之ヲ定ム

甲第四十三號 明治三十四年十一月二十八日

全國末派寺院

宗制第五號派出巡教規約及宗制第六號管長巡化規則ハ今般當局甲第四十二號ヲ以テ普達シタル曹洞宗布教規程ト改更スルノ手續中ニ屬セリ就テハ曹洞宗布教規程施行ノ日ヨリ宗制第五號派出巡教規約及宗制第六號管長巡化規則ハ之ヲ施行ヤサル議ト心得ヘシ

右普達ス

甲第四十四號 明治三十四年十一月二十八日

全國末派寺院

今般曹洞宗議會ノ協賛ヲ經テ制定シタル別記軍人布教規程ハ兩本山貫首親下ノ允可ヲ得タリ依テ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右普達ス

軍人布教規程

第一條 曹洞宗兩本山ハ陸海軍人ノ志氣ヲ涵養スル爲メ軍隊所在地ニ布教師ヲ常在セシメ軍人ノ化導ニ從事セシム

第二條 軍人化導ノ方法ハ說教演說講義及施本又ハ吉凶慶吊其他適宜ノ施設ニ依ル

第三條 軍人布教ノ事務及軍人布教師ハ曹洞宗務局之ヲ直轄ス

第四條 兩本山貫首内地親化ノ際ハ適宜ニ其巡錫地域ノ陸海軍隊ヲ慰問シ及軍人ヲ親化セラルルモノトス

第五條 陸海軍隊所在地又ハ最寄りノ寺院ニシテ軍人布教ニ關スル道場ニ指定セラルル時ハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第六條 陸海軍隊所在地又ハ其地方ノ寺院住職前任職徒弟ハ軍人布教ニ關スル法要アル毎ニ曹洞宗務局曹洞宗務支局又ハ布教師ノ指揮ニ依リ隨喜參同スルノ義務ヲ有ス

第七條 軍人布教師ハ戰時ニ於テ從軍布教ノ義務ヲ有ス

第八條 第七師團軍人ノ布教及臺灣守備隊軍人ノ布教ハ北海道及臺灣ノ各布教規程ノ定ムル所ニ依ル

第九條 軍人布教ニ關スル細則ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第十條 此規程ノ施行期日ハ宗令ヲ以テ之ヲ定ム

甲第四十九號 明治三十四年十一月二十八日

全國末派寺院

今般曹洞宗議會ノ協賛ヲ經テ制定シタル別記鹿兒島縣高知縣布教規程ハ兩本山貫首現下ノ允可ヲ得タリ依テ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右普達ス

鹿兒島縣高知縣布教規程

第一條 曹洞宗兩本山ハ鹿兒島高知ノ兩縣ニ駐在布教師ヲ特派シ兩縣ノ布教ニ從事セシム

第二條 鹿兒島高知兩縣ノ布教ハ從前ノ寺院ヲ復興シ舊屬ノ檀徒信徒ヲ回收シ宗門ノ恢復ヲ目的トス

第三條 布教師ハ曹洞宗務局ノ指揮ヲ承ケ左ノ教務ヲ舉行ス

- 一 平素縣廳所在地ニ駐錫シ開教演法スルコト
- 一 毎年春秋二斯ニ縣内ヲ巡回布教シ化門ノ興隆ヲ圖ルコト
- 一 廢寺ノ再興及舊屬檀信ノ回歸ヲ企畫スルコト
- 一 有望ノ方所ニハ他縣有志ノ僧侶ヲ招徠シ前項ノ事業ニ從事セシムルコト
- 一 現在ノ寺院ヨリ布教ノ依囑アル時ハ直ニ赴化スルコト
- 一 本務ノ餘暇ニ軍人又ハ監獄ノ布教ヲ爲スコト

第四條 兩縣布教ニ關スル細則ハ宗令ヲ以テ之ヲ定メ此規程ノ施行期日亦宗令ヲ以テ之ヲ定ム

甲第四十六號 明治三十四年十一月二十八日

全國末派寺院

今般曹洞宗議會ノ協賛ヲ經テ制定シタル別記監獄布教規程ハ兩本山貫首親下ノ允可ヲ得タリ依テ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
右普達ス

監獄布教規程

- 第一條 曹洞宗兩本山ハ在監囚徒ヲシテ改過遷善ノ實績ヲ擧ケシムル爲メ集治監及監獄ノ承認ヲ經テ之ニ布教師ヲ常在セシメ囚徒ノ教誨ニ從事セシム
- 第二條 囚徒教誨ノ方法ハ專ラ集治監及監獄ノ成規慣行ニ準據シ傍ヲ適宜ノ措置ヲ施行ス
- 第三條 監獄布教ニ關スル事務並ニ布教師ハ曹洞宗務局之ヲ直轄ス
- 第四條 兩本山貫首巡教ノ地域ニ於テ集治監又ハ監獄アル時ハ親化ヲ受ケシムルコトヲ得布教師巡回ノ場合亦同シ
- 第五條 第四條ノ親化又ハ布教ヲ受ケントスル時ハ監獄教誨師又ハ其地方宗務支局取締ヨリ集治監又ハ監獄ニ交渉シ其承認ヲ經テ豫メ兩本山貫首又ハ布教師ノ許諾ヲ受ケヘシ
- 第六條 各府縣曹洞宗務支局ハ其所在地方ノ集治監又ハ監獄ニ於テ教誨師ニ缺員ヲ生シ若クハ特志ノ

教誨ヲ承認スル場合ニハ當該官署ニ交渉シテ監獄布教師ノ任命又ハ特派ヲ曹洞宗務局ニ申請スヘシ
第七條 集治監及監獄ノ教誨師ニ補セラレ俸給ヲ受クル者ニハ其程度ニ應シ曹洞宗務局ヨリ相當ノ補助金又ハ慰勞金ヲ給與ス

第八條 無俸給ヲ以テ集治監又ハ監獄ヨリ教誨師ノ依囑ヲ受クル者ニハ其人器ニ應シ曹洞宗務局ヨリ相當ノ衣資ヲ給與ス

第九條 集治監又ハ監獄所在地ノ寺院ニシテ布教師ノ宿舍ニ充テラルル時ハ之ヲ辭スルコトヲ得ズ

第十條 集治監又ハ監獄ノ請求ニ依リ布教師ニ於テ法要ヲ修行スル時ハ最寄り寺院住職前任職徒弟ハ曹洞宗務局ノ指揮又ハ布教師ノ要求ニ依リ隨喜奉同スルノ義務ヲ有ス

第十一條 監獄布教ニ關スル細則ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第十二條 此規程ノ施行期日ハ宗令ヲ以テ之ヲ定ム

甲第四十七號 明治三十四年十一月二十八日

全國末派寺院

今般曹洞宗議會ノ協賛ヲ經テ制定シタル別記教導講習院規程ハ兩本山貫首親下ノ允可ヲ得タリ依テ明治三十五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
右普達ス

教導講習院規程

第一條 曹洞宗兩本山ハ布教傳道ノ人材ヲ養成シ及布教ノ方法ヲ盡一スル爲メ教導講習院ヲ東京ニ置キ曹洞宗務局之ヲ直轄ス

第二條 教導講習院ハ布教ニ樞要ナル學術ヲ講授シ說教ヲ練習シ其作法ニ熟達セシムルヲ以テ目的トス

第三條 教導講習院ニ左ノ職員ヲ置ク

教師 一人

助教師 一人

講師 若干人

幹事 一人

書記 一人

第四條 教師ハ教導講習院ヲ管理シ及講習生ノ授業ヲ擔任ス助教師ハ教師ノ命ヲ承ク授業ヲ分掌シ教師事故アル時ニ之ニ代ル

講師ハ教師ノ指定ニ依リ講座ノ一部又ハ數部ヲ擔任ス

幹事ハ教師ノ指揮ヲ承ク講習生ノ取締ニ關スル事項及庶務ヲ擔任ス

書記ハ上職ノ命ヲ承ク記録及事務ニ從事ス

第五條 教導講習院ノ入學志願者ニハ入學試験ヲ行フ

第六條 教導講習院ニ入學ヲ志願スル者ハ左記各項ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一 操行綿密ニシテ身體強壯ナルコト

二 四等教師以上ノ資格ヲ具備スルコト

第七條 前條ノ資格ヲ具ヘ左記各項ノ一ニ該當スル修學履歴ヲ有スル者ハ入學試験ヲ要セス

一 大學林又ハ高等中學林ヲ卒業シタル者

二 大學林又ハ高等中學林ニ入學セスシテ其卒業生ト同等若クハ同等以上ト認ムル修學履歴ヲ有スル者

三 五箇年以上布教ニ從事シ其熟達又ハ功績ヲ認メテ兩本山ヨリ選抜セラレタル者

第八條 講習生在院中ハ宗費ヲ以テ學資ヲ補助ス

第九條 教導講習院ノ講習期間ハ六箇月トス

第十條 學期ハ毎年二月一日ニ始マリ七月三十日ニ終ル但時宜ニ依リ期日ヲ變更スルコトアルヘシ

第十一條 定期ノ試験ヲ經テ教導講習院ノ科程ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第十二條 教導講習院ノ卒業者ニハ其成績ヲ審査シテ左ノ等級ニ依リ稱號ヲ授與シ之ヲ公稱セシム一
等布教師 二等布教師 三等布教師 四等布教師 五等布教師 六等布教師

第十三條 教導講習院ヲ卒業シタル者ハ兩本山ノ布教師ニ任用スルモノトス

第十四條 教導講習院ヲ卒業シタル者ト雖モ更ニ入學ヲ志願スル者ハ曹洞宗務局ノ許可ヲ得テ再ヒ講
習生ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ宗費ヲ受クルコトヲ得ス

本條再講習生ニハ第十一條及第十二條ノ規定ヲ準用シ其等級ヲ昇進セシムルコトアルヘシ但卒業證
書ヲ授與セス

第十五條 入學試驗科程講習科程及此規程ヲ施行スルニ必要ナル細則ハ宗令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 此規程ノ施行期日ハ宗令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 此規程ニ抵觸スル従前ノ規程ハ此規程施行ノ日ヨリ廢止ス

甲四十八號 明治三十四年十一月二十八日

全國末派寺院

今般曹洞宗議會ノ協賛ヲ經テ決定シタル別記教育改良方案ハ兩本山貫首現下ノ允可ヲ得タリ依テ明治
三十五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
右普達ス

教育制度改正方案

第一條 曹洞宗ノ學林ヲ分テ曹洞宗大學林高等中學林曹洞宗中學林ノ三種トス

第二條 曹洞宗大學林ハ宗乘餘乘ノ蘊奧及須要ナル學科ノ蘊奧ヲ教授スル所トス

第三條 曹洞宗高等中學林ハ曹洞宗大學林ニ入ラントスル者又ハ布教教育ノ任務ニ當ラントスル者ニ

須要ナル宗乘餘乘及高等ノ普通學ヲ教授スル所トス

第四條 曹洞宗中學林ハ曹洞宗高等中學林ニ入ラントスル者又ハ普通僧侶ノ資格ヲ備ヘントスル者ニ

須要ナル宗乘餘乘及普通學ヲ教授スル所トス

第五條 曹洞宗大學林曹洞宗高等中學林ハ各一箇所トシテ之ヲ東京ニ置ク

第六條 曹洞宗中學林ハ全國ヲ四大學區ニ分テ每學區ニ一中學林ヲ置ク其區域ハ別ニ之ヲ定ム

第七條 各學林修業年間ヲ定ムルコト左ノ如シ

曹洞宗大學林 三箇年

曹洞宗高等中學林 三箇年

曹洞宗中學林 五箇年

第八條 曹洞宗大學林曹洞宗高等中學林曹洞宗中學林ノ經費ハ曹洞宗務局ニ於テ之ヲ支辨ス

第九條 曹洞宗大學林曹洞宗高等中學林曹洞宗中學林ノ學則及職制ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム
第十條 兩本山僧堂及地方認可僧堂ノ設備方法並ニ監督方法ハ學林教育ノ學則規定ト共ニ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第十一條 此改正制度ノ施行期日ハ宗令ヲ以テ之ヲ定ム

(別表)

曹洞宗中學林學區表

第一學區 (東京市)

東京府 神奈川縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 栃木縣 茨城縣 長野縣 新潟縣 山梨縣

第二學區 (仙臺市)

福島縣 宮城縣 岩手縣 山形縣 秋田縣 青森縣 北海道廳

第三學區 (名古屋市)

靜岡縣 岐阜縣 三重縣 滋賀縣 和歌山縣 福井縣 石川縣 富山縣 奈良縣 京都府 大阪府

兵庫縣

第四學區 (山口町)

岡山縣 廣島縣 鳥取縣 島根縣 山口縣 香川縣 高知縣 德島縣 愛媛縣 佐賀縣 長崎縣
福岡縣 熊本縣 大分縣 宮崎縣 鹿兒島縣

甲第四十九號 明治三十四年十一月二十八日

全國米派寺院

明治三十五年豫算ノ施行ニ伴ヒ本年當局甲第四十八號普通教育改良方案ニ依リ直ニ中學林ヲ設立スルトキハ本末ノ利便之ニ過キタルコトナシト雖モ改良方案ニ依リ中學林ヲ設立スルニハ教場ノ建築ヲ要シ又學則ノ改定ヲ要シ隨テ地方廳ノ許可ヲ要スル等到底急劇ノ措置ヲ許サ、ルノ事由アルニ依リ本學年度ハ明年七月三十日ヲ限リトシ夫レ迄ノ間ハ現行中學林ノ規程ニ依リ從前通地方中學林ヲ持續スヘシ尤モ其費用ハ各種徵收金ノ中ヨリ地方納附ノ割ヲ以テ明年一月ヨリ七月マテ中學林費ニ充ツル金額ヲ四月及ヒ七月ノ兩回ニ各半額ツ、當局ヨリ支給ス而シテ八月分ニ充ツル中學林費ハ之ヲ三分ニシテ其一分ハ各中學林ニ交附シ職員解職ニ際スル慰勞及殘務結了ノ費用ニ充テ其二分ハ新設四個中學林設備ニ關スル費用ニ充ツルヲニ決定ス又曹洞宗大學林及曹洞宗高等中學林ハ現行ノ規程ニ依リ明年八月マテ之ヲ持續シ明年九月一日ヨリ教育改良方案ニ依リ其改正學則ヲ施行ス尤モ明年一月ヨリ八月マテノ經費ハ豫算款項ノ中ヨリ之ヲ支辨シ其剩餘ニ屬スルモノハ當然適法ノ處分ヲ附スルモノトス尙尼僧學林ノ設置モ明年九月一日ヨリ實施スルヲ以テ其經費ノ剩餘ニ屬スル者ハ亦當然適法ノ處分ニ附ス

右普達ス

甲第五十號 明治三十四年十一月二十八日

全國末派寺院

曹洞宗末派寺院住職進退登錄謝金規程ハ第五次曹洞宗議會豫算案ノ議決ニ基キ左ノ通改定シ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス明治二十九年當局普達甲第十四號ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス右普達ス

曹洞宗末派寺院住職進退登錄謝金規程

第一條 末派寺院住職進退ニ際シ曹洞宗務局及管轄宗務支局ニ納付スヘキ登錄謝金ヲ定ムルコト左ノ如シ

片法 檀會	常恒會		寺格	
	退	住	退	住
退	職	隱	職	隱
七	參	八	四	拾
圓	圓	圓	圓	圓
九	貳	壹	貳	貳
拾	圓	圓	圓	圓
錢	圓	圓	錢	錢

平僧地	四等法地		三等法地		二等法地		一等法地		隨意會	
	退	住	退	住	退	住	退	住	退	住
隱	職	隱	職	隱	職	隱	職	隱	職	職
壹	五	貳	拾	參	十	四	貳	五	六	參
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
拾	參	七	七	五	壹	六	壹	七	八	壹
五	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾
錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢

第二條 前條登錄謝金ハ住職繼目出願ト共ニ管轄曹洞宗務支局ヘ納付スヘシ但繼目願ヲ許可セサル時ハ該登錄謝金ヲ還附ス

第三條 未派僧侶乙寺ヨリ甲寺へ轉住スル場合ハ其轉住者ハ乙寺ニ關スル登録謝金ヲ納付スルニ及ハス

第四條 未派僧侶宗制第十一號警誠條規ノ處分ヲ受ケ住職ヲ罷免セラレタル時ハ登録謝金ヲ納付スルニ及ハス

甲第五十一號 明治三十四年十一月廿八日

全國未派寺院

今般曹洞宗議會ニ於テ別記ノ通未派總代委員ニ關スル決議案ヲ議決シタルニ依リ當局之ヲ採納シ兩本山貫首親下ノ允可ヲ經決議ノ旨趣ヲ貫徹スル爲メ明治三十五年二月一日ヨリ之ヲ施行ス尙別記決議案第四項ニ記スル豫算第三款ハ豫算第三款ニ於テ未派總代委員費ト修正セリ

右普通ス

○ 未派總代委員ニ關スル決議案

未派總代委員ノ任期ハ滿壹ケ年トシ曹洞宗務局ニ常置セス定時又ハ臨時ニ曹洞宗務局ニ參集シ又ハ管長ノ命ヲ承ク曹洞宗務局各學林各宗務支局特別布教所ニ就キ財務出納ノ狀況ヲ監督シ出納帳簿ヲ檢閲シ及結算ヲ審査ス

未派總代委員ニハ別ニ衣資ヲ支給セス參集又ハ出張ノ時ハ路資日當ヲ支給ス定時參集臨時出張ニ關スル件ハ未派總代委員ノ申合ヲ以テ之ヲ定ム

未派總代委員ニ關スル費用ハ豫算第三款會計監查委員經費ヲ適用ス

甲第五十二號 明治三十四年十一月二十八日

全國未派寺院

今般曹洞宗議會ノ協賛ヲ經テ決定シタル別記明治三十五年度曹洞宗費出納豫算ハ兩本山貫首親下ノ允可ヲ得タリ依テ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年度豫算經常歲出第一款兩本山歲費ハ明治三十五年度限經常歲入第一款ニ表示スル基本財産ノ利子ヲ以テ之ヲ支辨シ他ノ歲入ヲ以テ兩本山歲費ニ充テサルコトヲ曹洞宗議會ニ於テ議決シタルニ付兩本山ハ之ヲ採納同意シタリ

右普通ス

○ 豫算案

經常歲入總計 金拾七萬參千貳百〇九圓參拾六錢

第一款 金壹萬八千圓

基本財産利子

- 第二款 金參萬五千八百五拾貳圓六拾錢 寺院等級劃課金
- 第三款 金貳萬四千〇六拾九圓〇六錢 寺有地價金劃課金
- 第四款 金壹千九百參拾七圓七拾錢 祠堂金劃課金
- 第五款 金貳萬五千圓 檀敷劃課金
- 第六款 金六千五百貳拾圓 住職進退報謝金等
- 第七款 金六萬圓 檀家信徒冥加金
- 第八款 金壹千四百參拾圓 宗報賣下收入金
- 第九款 金四百圓 雜收入

(以上)

經常歲出總計 金拾七萬參千貳百〇九圓參拾六金

- 第一款 金壹萬八千圓 兩本山費
- 第二款 金壹萬八千圓 兩本山歲費
- 第三款 金參萬五千〇拾九圓參拾貳錢 曹洞宗務局費
- 第四款 金壹萬四千〇九拾六圓 俸給諸給
- 第五款 金五千圓 曹洞宗制度調查會費

- 第三項 金貳千參百圓 教科書編纂繼續費
- 第四項 金貳千圓 各宗協同事業費
- 第五項 金七百貳拾圓 視學費
- 第六項 金四百拾五圓 職員交迭其他旅費
- 第七項 金貳百七拾圓 臨時派出費
- 第八項 金壹千八百圓 慰問及賞與費
- 第九項 金壹千八百圓 宗報發行費
- 第十項 金九百拾貳圓參拾貳錢 筆墨紙茶炭油諸費
- 第十一項 金九百九拾圓 郵便電信及通運諸費
- 第十二項 金壹百貳拾六圓 印刷物諸費
- 第十三項 金壹百四拾圓 官報書籍及新聞購入費
- 第十四項 金參百八拾圓 臨時器具購入費
- 第十五項 金五百五拾圓 恩給金
- 第十六項 金四百五拾圓 慰勞金
- 第十七項 金參百九拾圓 營膳費

- 第十八項 金五百八拾圓 諸雜費
- 第十九項 金五百圓 臨時費
- 第二十項 金壹千六百圓 豫備費
- 第三款 金六百四拾八圓 未派總代委員經費
- 第一項 金參百六拾圓 歲費
- 第二項 金貳百八拾八圓 旅費及雜費
- 第四款 金壹萬五千貳百貳拾參圓九拾錢 地方宗務費
- 第一項 金六千壹百四拾五圓五拾錢 支局經費
- 第二項 金參千參百〇八圓四拾五錢 支局宗費徵集費
- 第三項 金五千七百七拾圓 地方監事費
- 第五款 金壹萬五千二百四拾五圓參拾五錢 內地布教費
- 第一項 金九千四百四拾九圓參拾五錢 俸給諸給
- 第二項 金七千壹百貳拾四圓 巡回費
- 第三項 金八百八拾圓 賞典費
- 第四項 金壹千七百九拾貳圓 職員交迭其他旅費

- 第六款 金貳千圓 軍人布教費
- 第一項 金九百圓 俸給諸給
- 第二項 金七百四拾圓 巡回費
- 第三項 金參百六拾圓 諸雜費
- 第七款 金壹千圓 監獄布教費
- 第一項 金七百貳拾圓 俸給諸給
- 第二項 金貳百八拾圓 臨時費及雜費
- 第八款 金五千七百七拾參圓 臺灣布教費
- 第一項 金參千圓 俸給諸給
- 第二項 金六百圓 布教場經費
- 第三項 金四百八拾圓 國語學校補助費
- 第四項 金五百四拾圓 布教場宿舍費
- 第五項 金貳百圓 職員交迭其他旅費
- 第六項 金六百圓 布教場營繕費
- 第七項 金壹百圓 賞典費

- 第八項 金壹百參拾參圓 臨時費
- 第九項 金壹百貳拾圓 豫備費
- 第九款 金壹千五百五拾四圓四拾四錢 北海道布敷費
- 第一項 金參百拾壹圓四拾四錢 俸給諸給
- 第二項 金六百拾參圓四拾四錢 巡回費
- 第三項 金百拾圓 賞典費
- 第四項 金四百圓 新寺創建補助費
- 第五項 金壹百貳拾圓 布教師往復其他旅費
- 第十款 金壹千圓 鹿兒島縣高知縣特別布敷費
- 第一項 金七百二拾圓 俸給諸給
- 第二項 金貳百八拾圓 巡回費
- 第十一款 金四千六百貳拾壹圓 教導講習院經費
- 第一項 金壹千七百九拾壹圓 俸給諸給
- 第二項 金壹千八百圓 講習生學費補助
- 第三項 金壹百貳拾圓 職員特別手當

- 第四項 金壹百五拾圓 書籍購入費
- 第五項 金八拾圓 職員交送其他旅費
- 第六項 金壹百八拾圓 設備費
- 第七項 金參百圓 諸雜費
- 第八項 金貳百圓 豫備費
- 第十二款 金壹萬〇貳百拾九圓四拾錢 大學林經費
- 第一項 金七千六百九拾貳圓 俸給諸給
- 第二項 金壹百圓 獎學金及賞與金
- 第三項 金貳百四拾圓 職員交送其他旅費
- 第四項 金貳百貳拾圓 書籍購入費
- 第五項 金五百〇七圓四拾錢 寮監察雜費
- 第六項 金四百圓 寮監察臨時費
- 第七項 金壹百圓 學監察事務費
- 第八項 金參百六拾圓 區役所其他納稅
- 第九項 金四百圓 修繕費

- 第十項 金貳百圓 豫備費
- 第十三款 金九千六百參拾壹圓參拾錢 高等中學林經費
- 第一項 金六千五百九拾四圓 俸給諸給
- 第二項 金六百圓 書籍類及授業器械購入費
- 第三項 金壹百圓 獎學金及生徒優待費
- 第四項 金貳百貳拾圓 職員交迭其他旅費
- 第五項 金六百五拾七圓參拾錢 學監察諸雜費
- 第六項 金六百圓 租稅及借地料
- 第七項 金參百五拾圓 營繕費
- 第八項 金貳百五拾圓 臨時費
- 第九項 金貳百六拾圓 豫備費
- 第十四款 金參萬九千七百九拾參圓六拾錢 全國四箇中學林經費
- 第一項 金貳萬七千四百〇八圓 俸給諸給
- 第二項 金貳千四百圓 書籍類及授業器械購入費
- 第三項 金六百圓 獎學金及賞與金

- 第四項 金貳千四百〇五圓六拾錢 學監察雜費
- 第五項 金參千八百四拾圓 借地及借舍料
- 第六項 金貳百四拾圓 納稅費
- 第七項 金九百圓 營繕費
- 第八項 金壹千圓 臨時費
- 第九項 金壹千圓 豫備費
- 第十五款 金參千九百八拾圓 留學生支給費
- 第一項 金壹千六百貳拾圓 內地留學生支給費
- 第二項 金壹千五百六拾圓 外國留學生支給費
- 第三項 金八百圓 旅費及手當
- 第十六款 金五百圓 尼僧學林補助費
- 第一項 金五百圓 尼僧學林補助費
- 第十七款 金五千圓 會議費
- 第二項 金五千圓 會議費

甲第五十三號 明治三十四年十一月二十八日

全國末派寺院

今般曹洞宗議會ノ協賛ヲ經テ制定シタル別記曹洞宗宗費豫納規程ハ兩本山貫首祝下ノ允可ヲ得タリ依テ明治三十五年三月十日ヨリ之ヲ施行ス
右普達ス

曹洞宗宗費豫納規程

- 第一條 曹洞宗兩本山ハ曹洞宗大學林 四箇曹洞宗中學林教場建築費及事業費ニ充ツル爲メ此規程ニ依リ全國末派寺院住職ヲシテ宗費ヲ豫納セシム
- 第二條 宗費豫納ニ關スル事務ハ曹洞宗務局之ヲ總管シ各曹洞宗務支局ヲシテ之ヲ分掌セシム
- 第三條 宗費豫納金ノ總額ハ金五萬圓トス
- 第四條 未派寺院住職ノ應スヘキ豫納金ハ一口金拾圓金五圓金貳圓五拾錢ノ三種トシ左ノ割合ニ依リ之ヲ發行ス
 - 一 金拾圓 千六百六拾貳通
 - 二 金五圓 二千百六通
 - 三 金貳圓五拾錢 九千百四拾通

第五條 前條ノ豫納金ハ別表ニ依リ滿二年目滿三年目滿四年目ノ三回ニ各種宗費ノ内へ組替其豫納ニ應シタル月ヨリ年八分ノ利子ヲ附スルモノトス

第六條 二等法地以上ノ寺院住職ハ宗費金拾圓以上ノ豫納ニ應スヘキモノトス

第七條 三等法地ノ寺院住職ハ宗費金五圓以上ノ豫納ニ應スヘキモノトス

第八條 四等法地ノ寺院住職ハ宗費金貳圓五拾錢以上ノ豫納ニ應スヘキモノトス

第九條 少檀微祿等ニシテ第六條第七條第八條ノ割合ニ應シ難キ寺院住職ハ其事情ヲ具シ適當ノ豫納ニ應スヘキモノトス

第十條 少檀微祿又ハ天災等ノ爲メ全分宗費ノ豫納ニ應スル能ハサル寺院住職ハ其檀徒又ハ信徒ヲシテ之ヲ代納セシムルコトヲ得

第十一條 此規程ノ施行ニ關スル細則及施行期日ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

曹洞宗宗費豫納規程別表

金額	期限	滿二年目	滿三年目	滿四年目
豫納元金	金拾圓	元金殘額 金拾圓	元金殘額 金六圓六拾六錢	元金殘額 金三圓三拾三錢
金拾圓	此利(年八分) 金壹圓六拾錢	元金合計 金四圓九拾三錢	元金合計 金三圓八拾六錢	元金合計 金三圓五拾九錢
		元金(三分之一) 組替(三分之二) 金三圓三拾三錢	元金(三分之一) 組替(三分之二) 金三圓三拾三錢	元金(三分之一) 組替(三分之二) 金三圓三拾三錢

豫納元金 金 五 圓	元金殘額 金 五 圓	元金 組替(三分之一) 金壹圓六拾六錢	元金殘額 金三圓三拾三錢	元金 組替(三分之一) 金壹圓六拾六錢	元金殘額 金壹圓六拾六錢	元金 組替(三分之一) 金壹圓六拾六錢
此利(年八分) 金八拾錢	元利合計 金貳圓四拾六錢	元金 組替(三分之一) 金八十三錢	元金殘額 金貳圓拾六錢	元金 組替(三分之一) 金八拾三錢	元金殘額 金拾三錢	元金 組替(三分之一) 金壹圓七拾九錢
豫納元金 金貳圓五拾錢	元金殘額 金貳圓五拾錢	元利合計 金壹圓貳拾三錢	元金殘額 金壹圓六拾六錢	元金 組替(三分之一) 金八拾三錢	元金殘額 金八拾三錢	元金 組替(三分之一) 金八拾三錢
此利(年八分) 金四拾錢	元利合計 金壹圓貳拾三錢	元金 組替(三分之一) 金九拾六錢	元金殘額 金九拾六錢	元金 組替(三分之一) 金八拾三錢	元金殘額 金六錢	元利合計 金八拾九錢

甲第五十四號 明治三十四年十一月二十八日

全國末派寺院

今般曹洞宗議會ノ協賛ヲ經テ制定シタル別記曹洞宗學林教場建築案ハ兩本山貫首祝下ノ允可ヲ得タリ
依テ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
右普達ス

曹洞宗學林教場建築案

- 第一條 曹洞宗兩本山ハ末派寺院住職ヲシテ曹洞宗大學林及四箇曹洞宗中學林教場ヲ建築セシム
- 第二條 曹洞宗大學林教場建築ニ關スル事務ハ曹洞宗務局之ヲ直轄ス
- 第三條 四箇曹洞宗中學林教場建築ニ關スル事務ハ曹洞宗務局之ヲ總管シ各學區內寺院住職ノ委員ヲ

シテ之ヲ分掌セシム

第四條 曹洞宗大學林及四箇曹洞宗中學林教場建築費ハ合計約金五萬圓トシ一時曹洞宗宗費豫納金ヲ以テ之ニ充テ別表ニ依リ明治三十六年ヨリ向四箇年間ニ年八分ノ利子ヲ附シテ之ヲ納附セシム

第五條 曹洞宗大學林及曹洞宗四箇中學林教場建築費ヲ賦課スルノ標準ハ末派寺院ノ收納高ニ依ル

第六條 本案ノ施行ニ關スル規程ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

曹洞宗學林教場建築案別表

明治三十六年度	明治三十七年度	明治三十八年度	三箇年度合計
元金 金壹萬六千六百貳拾七圓拾五錢	元金 金壹萬六千六百貳拾七圓拾五錢	元金 金壹萬六千六百貳拾七圓拾五錢	元金合計 金四萬九千八百八拾壹圓四拾五錢
利子(年八分二箇年分) 金 八 千 圓	利子(年八分) 金貳千六百貳拾七圓拾五錢	利子(年八分) 金千參百〇八圓參拾壹錢	利子合計 金壹萬九千九百參拾五圓四拾六錢
元利合計 金貳萬四千六百貳拾七圓拾五錢	元利合計 金壹萬九千貳百五拾四圓參拾錢	元利合計 金壹萬七千九百參拾五圓四拾六錢	元利總計 金六萬千八百拾六圓九拾壹錢

(參考) 元金合計四萬九千八百八拾壹圓四拾五錢ハ別案豫納元金五萬圓ニ對シ金百拾八圓五拾五錢

ノ違算不足ト爲ル是毎年度ノ組替元金ニ厘位ヲ切捨テタルノ結果ニシテ此金額ハ最初豫納ノ時ニ於テ之ヲ控除積置キタルモノニ付結算ノ時之ヲ算入シテ合計金五萬圓ノ元高ニ達セシムルモノトス
甲第五十五號 明治三十四年十一月二十八日 全國末派寺院

今般曹洞宗議會ノ協賛ヲ經兩本山貫首現下ノ允可ヲ得テ宗費賦課規程及兩本山冥加金規程等ヲ制定發布シ明年一月ヨリ施行スルニ依リ従前ノ賦課ニ屬スル臺灣北海道布教費曹洞宗高等中學林費及補足宗費等未納附ノ寺院ハ此際悉皆調金シ本年十二月二十五日限相違ナク必管轄宗務支局ヘ納附スヘシ若シ怠慢不納スル者ハ宗制第十一號警誠條規ニ照シ重キハ學級收奪ニ輕キハ住職罷免ノ處分ニ附スルコトアルヘシ
右普達ス

乙第八號 明治三十四年十一月二十八日

北海道廳各府縣宗務支局

臺灣北海道布教費曹洞宗高等中學林費及昨年賦課シタル補足宗費ハ往々未完納又ハ不納ノ寺院之レアリ或ハ已ニ宗務支局ニ其幾分ヲ徵收シ置キ未タ當局ニ納附セサル向モ尠カラズ然ルニ今般曹洞宗議會ニ於テ決議シタル各種ノ賦課金ハ明年一月ヨリ之ヲ實施スルヲ以テ各支局ノ内前記當局ニ納附スヘキ從來ノ賦課金ハ此際悉皆取纏メ來ル十二月三十日限リ相違ナク當局ニ納附スヘシ若シ管内寺院ニシテ

未完納者又ハ不納者アルトキハ其事由ヲ具シ當局ニ對シ處分ヲ要請スヘシ又宗務支局ニシテ己ニ管内寺院ヨリ徵收シ當局ニ未完納又ハ不納スルトキハ其取締又ハ職員ハ宗制第十一號警誠條規第十三條ニ照シ處分ニ及フ
右示達ス

甲第五十六號 明治三十四年十一月二十八日 全國末派寺院

明治二十八年當局甲第三十七號普達曹洞宗高等中學林經費賦課規則明治二十八年當局乙第五號示達並ニ明治二十九年當局甲第四十三號普達臺灣島及北海道布教經費課賦規程明治三十年當局甲第八號普達及明治三十三年當局甲第九號普達ハ本年十二月三十日限之ヲ廢止ス但右曹洞宗高等中學林經費課賦規則及臺灣島北海道布教經費課賦規程並ニ補足宗費徵收普達ノ施行期限中ノ負擔ニ屬スル課金未納者又ハ不納者ハ將來之ヲ完納スルノ義務ヲ免ル、コトナシ
右普達ス

報告第四號 明治三十四年十一月二十八日 全國末派寺院諸檀信徒

生命保險養老保險等ニ被保ヲ要スルハ世間ト出世間トヲ論セス生存滅後自衛ノ計圖ニシテ必緊缺クヘカラサルノ要心トス茲ニ第五次曹洞宗議會ハ全會一致ノ決議ヲ以テ禪徒生命保險株式會社ノ事業ヲ是

認シ大ニ其發達ヲ扶植センコトヲ期シ當局ヘ之ヲ建議ス依テ當局ハ其建議ヲ採用シタリ就テハ同保險會社ヨリ被保人募集及職員巡回ノ時ハ精々之ニ便宜ヲ與フヘシ
右報告ス

甲第五十七號 明治三十四年十二月十五日

全國末派寺院

明治三十五年一月一日ヨリ大本山總持寺貫首直心淨國禪師曹洞宗管長御勤務相成候
右普達ス

甲第五十八號 明治三十四年十二月十五日

全國末派寺院

今般曹洞宗議會ノ協賛ヲ經テ決定シタル別記曹洞宗制度調査會設置ニ關スル規定ハ兩本山貫首宛下ノ
允可ヲ得タリ依テ明治三十五年二月一日ヨリ之ヲ施行ス
右普達ス

曹洞宗制度調査會規程

第一條 曹洞宗兩本山ハ自今滿登箇年ヲ期限トシテ曹洞宗務局内ニ曹洞宗制度調査會ヲ設置ス

第二條 曹洞宗制度調査會ハ宗門百般ノ制度ヲ改善スルヲ目的トシ宗制宗規ノ改正ニ關スル事業ヲ執

行ス

第三條 曹洞宗制度調査會職員ノ組織及執務ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

甲第五十九號 明治三十四年十二月十五日

全國末派寺院

曹洞宗制度調査會細則別記ノ通之ヲ定ム
右普達ス

曹洞宗制度調査會細則

第一條 曹洞宗制度調査會ハ兩本山貫首之ヲ直轄シ曹洞宗務局總務ヲシテ之ヲ管理セシム

第二條 曹洞宗制度調査會ハ委員五名參與員四名評議員十名顧問員三名書記若干名ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 委員ハ兩本山貫首ノ特命ヲ以テ之ヲ任シ參與員ハ曹洞宗務局職員ノ内ヨリ之ヲ選任シ評議員ハ碩德耆宿及宗務教務學務財務等ニ經驗アル者ヲ選任ス顧問員ハ法制ニ練達スルモノヲ囑托招聘ス但シ參與員以下職員ノ任庸囑托ハ兩本山ノ協議ニ依ル

第四條 曹洞宗制度調査會ニ於テ調査及起案スヘキ事項ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一、宗憲
 - 二、宗法
 - 三、本寺末寺法
 - 四、僧儀僧階及僧侶教師ノ資格分限
 - 五、寺院法及檀徒信徒法
 - 六、宗務
 - 七、教務
 - 八、學務
 - 九、財務
 - 十、賞罰
 - 十一、其他重要事項
- 第五條 曹洞宗制度調査會ハ調査事項ノ綱目ヲ分チ主査ヲ定メ業務ヲ分擔スルコトヲ得
- 第六條 曹洞宗制度調査會職員ハ調査ノ事項ニ關シ兩本山又ハ曹洞宗務局ニ就テ其意見ヲ陳辯シ及質疑ヲ爲シ又ハ文書ノ閱覽ヲ申請スルコトヲ得
- 第七條 曹洞宗制度調査會ニ於テ調査ニ關スル書籍ヲ要スル時ハ曹洞宗務局ニ請求スルコトヲ得

- 第八條 曹洞宗制度調査會ニ於テ政府ニ經伺ヲ要シ又ハ宗門以外ニ就テ調査ヲ要シ又ハ末派寺院ニ就テ調査ヲ要スル事項アルトキハ曹洞宗務局ニ對シテ之ヲ要求スルコトヲ得
- 第九條 曹洞宗制度調査會ハ本末固有ノ性格及權義ヲ變革スルノ起案及決議ヲ爲スコトヲ得ス但更正改善スルハ此限ニ在ラス
- 第十條 曹洞宗制度調査會ハ曹洞宗務局ヲ經シテ末派寺院僧侶及其他ノ建議請願ヲ受理スルコトヲ得ス
- 第十一條 曹洞宗制度調査會職員ハ一切ノ會務ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス
- 第十二條 曹洞宗制度調査會ノ協議又ハ會議ハ總テ決テ多數ニ採ル
- 第十三條 曹洞宗制度調査會ニ於テ調査起案シタル文書ハ總テ曹洞宗務局ヲ經テ兩本山貫首ニ呈出スルモノトス
- 第十四條 曹洞宗制度調査會ニ於テ起案シタル文書ハ其事項ニ依リ逐條又ハ全條ニ就テ説明書ヲ添付スルコトヲ要ス
- 第十五條 曹洞宗制度調査會ニハ職員出勤簿及日誌ヲ調製シ置クヘシ
- 第十六條 曹洞宗制度調査會職員ノ執務時間及休暇ハ總テ曹洞宗務局ノ職員ニ準ス
- 第十七條 此細則ニ規定セサル事項ハ總テ曹洞宗務局總務ノ指揮ヲ受クヘシ

甲第六十號 明治三十四年十二月十五日

全國末派寺院

明治三十五年二月一日ヨリ當局ニ於テ曹洞宗制度調査會ヲ開設シ宗制宗規ノ改正ニ關スル事業ヲ執行スルニ就テハ末派寺院住職ニシテ宗制宗規ノ改正ニ關シ意見ヲ抱持スル者ハ左記心得書ニ準シ同年三月三十一日マテニ管轄宗務支局ヲ經由シ當局ニ其意見書ヲ呈出スヘシ

宗制宗規改正ニ關スル意見書呈出心得

- 一、意見書ニハ宗門及本末固有ノ性格ヲ變革スル事項ヲ記シ並ニ本末固有ノ禮義ヲ毀損スルノ事項ヲ記スヘカラス
 - 一、宗義行法僧儀階等ニ關スル事項ハ之ヲ記スルコトヲ得ス
 - 一、意見書ハ美濃野紙ニ正楷ヲ以テ認ムヘシ尙書面ハ總テ相當ノ禮法ヲ守リ調製スヘシ
 - 一、採用スヘキ意見ハ一人ノ意見モ之ヲ採用シ採用スヘカラサル意見ハ多數ト雖モ採用セサルヲ以テ同一意見書ヲ呈出スルニ多數ノ連署又ハ他人ヨリ之ヲ爲サシムルヲ要セス
 - 一、意見書ハ著書新聞ニ掲ケ又ハ其他ノ方法ニ依リテ之ヲ社會ニ公示スルコトヲ得ス
- 右普達ス

甲第六十一號 明治三十四年十二月十五日

全國末派寺院

本年當局甲第四十二號普達曹洞宗布教規程第四十四條ニ依リ別記ノ通兩本山貫首親化兩本山布教師巡教細則ヲ制定セリ

右普達ス

兩本山貫首親化布教師巡教細則

- 第一條 兩本山貫首ノ親化ハ毎年春秋二期ノ内ニ於テ之ヲ行フ
- 第二條 親化區域ヲ定ムルコト左ノ如シ
 - 第一區 山形縣 秋田縣 青森縣 (寺數壹千壹百二十ヶ寺)
 - 第二區 福島縣 宮城縣 岩手縣 (寺數壹千二百九十四ヶ寺)
 - 第三區 埼玉縣 群馬縣 茨城縣 栃木縣 千葉縣 (寺數一千五百八十五ヶ寺)
 - 第四區 東京府 神奈川縣 山梨縣 (寺數壹千二百一十一ヶ寺)
 - 第五區 長野縣 新潟縣 (寺數壹千壹百九十九ヶ寺)
 - 第六區 静岡縣 愛知縣 (寺數壹千五百三十二ヶ寺)
 - 第七區 三重縣 滋賀縣 岐阜縣 福井縣 石川縣 富山縣 (寺數壹千壹百十六ヶ寺)

第八區 京都府 大坂府 奈良縣 和歌山縣 兵庫縣 岡山縣 (寺數壹千〇九十九ヶ寺)

第九區 德島縣 香川縣 愛媛縣 山口縣 島根縣 鳥取縣 廣島縣 (寺數壹千壹百二十五ヶ寺)

第十區 福岡縣 佐賀縣 長崎縣 熊本縣 宮崎縣 大分縣 (寺數八百十ヶ寺)

第三條 前條ノ區域ハ十ヶ年毎ニ順次甲乙兩區ヲ轉換シ兩本山貫首互シテ親化セラル、モノトス

第四條 親化隨行員ハ其員數ヲ増減スルコトナシ

第五條 親化隨行長布教規程第十三條ニ依リ賞典ヲ舉行シタル時ハ親化了畢後曹洞宗務局ヲ經テ管長當番ノ本山貫首ニ其事山ヲ上申スヘシ

第六條 親化隨行長ハ親化了畢ノ後親化中ノ教場、親化日數參集隨喜寺院姓名、參聽男女類別員數、

地方内外教ノ情況其他布教ニ關スル重要ノ事項ヲ詳記シ曹洞宗務局ニ報告スヘシ

第七條 兩本山布教師ハ毎年春秋二期ニ於テ北海道臺灣島鹿兒島縣高知縣ヲ除キ全國一般ニ巡回布教セシム

第八條 兩本山布教師巡回布教ニ對シ地方寺院ハ如何ナル事由アリトモ延期ヲ申請シ又ハ謝絶スルコトヲ得ス

第九條 兩本山布教師布教ノ道場ニハ組合寺院ハ其檀徒信徒ヲ引率シテ隨喜參同スルノ義務ヲ有ス

第十條 兩本山布教師ノ待遇ハ質素枯淡ヲ旨トシ誠心實意ヲ盡スヘシ

第十一條 兩本山布教師ハ布教ノ際内外宗教ヲ誹謗スルコトヲ得ス
第十二條 兩本山布教師巡教了畢ノ後第六條ニ準スル報告書ヲ調製シ曹洞宗務局ニ呈出スヘシ
甲第六十二號 明治三十四年十二月十五日 全國末派寺院
本年當局甲第四十四號普通軍人布教規程第九條ニ依リ別記ノ通軍人布教規程細則ヲ制定セリ
右普達ス

軍人布教規程細則

第一條 曹洞宗兩本山ハ陸軍各師團及師團所在地以外ニ在ル師團附屬ノ各種兵營及海軍各鎮守府等ニ軍人布教師ヲ派遣シ軍人化導ノ本務ニ服セシム

第二條 軍隊所在地ニ布教ヲ開始スル時ハ曹洞宗務局ヨリ其軍隊ノ長官ニ對シ開教ノ旨趣ヲ通牒シ並ニ布教師ノ姓名ヲ報告ス布教師交代ノ時亦同シ

第三條 軍人布教師ハ毎月三回以上十回以下道場ヲ定メ適宜ニ説教演説及講義等ヲ修行シ且臨機ノ化導ヲ爲スヘシ

第四條 軍人ノ化導ハ明治十五年ノ勅語ヲ主體トシ之ニ本宗ノ教義ヲ參酌シ忠君愛國ノ志氣ヲ涵養振

作スルヲ主旨トス

第五條 軍人布教師ハ軍隊及軍人ノ吉凶ヲ慶吊スヘシ

第六條 兩本山貫首親化ノ因ミ軍隊ヲ慰問シ及軍人ヲ親化セラル、時ハ軍人布教師ハ其所在地ノ軍務官ニ就キ其日時ヲ協定シ豫メ隨行長ニ報告ヲ爲スヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テハ軍人布教師ハ地方宗務支局取締ト協同シ庶般ノ準備ヲ爲スヘシ

第八條 軍人布教師ハ如何ナル場合ト雖モ軍機ニ關スル事項ヲ陳辯シ及文書ヲ以テ公衆ニ報道スヘカラス

第九條 軍人布教師ハ軍人化導ノ際ニ於テ外教及他宗派ヲ誹謗スヘカラス

第十條 軍人布教師ハ如何ナル場合ト雖モ威儀形相ヲ亂スヘカラス

第十一條 軍人布教師ハ任期中疾病又ハ回避スヘカラサル事項ヲ除クノ外任意ニ辭職スルコトヲ得ス

第十二條 軍人布教師ハ曹洞宗務局ノ許可ヲ得スシテ一週間以上ノ缺勤ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 軍人布教師ハ毎月布教月報ヲ調製シ布教ノ狀況ヲ詳記シ曹洞宗務局ニ呈出スヘシ

第十四條 軍隊所在地ニ軍人布教ノ任務ニ堪フル者アル時ハ直ニ之ヲ任庸スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ派遣布教師俸給ノ半額又ハ三分ノ一ヲ支給ス

第十五條 軍人布教師ニシテ甲乙兩地ヲ兼任シ布教スル時及滿四年以上奉職シ成績ノ顯著ナル者ニハ

其實績ヲ調査シ相當俸給ヲ增加ス

第十六條 軍人布教師從軍シタル場合ハ特別ノ手當ヲ支給ス

第十七條 軍人布教師ニシテ其任務ニ堪ヘサル者又ハ一ヶ年以上ヲ經過シ成績ノ優ラサル者ハ直ニ解職スルコトアルヘシ

甲第六十三號 明治三十四年十二月十五日

全國末派寺院

本年當局甲第四十四號普通鹿兒島縣高知縣布教規程第四條ニ依リ別記ノ通鹿兒島縣高知縣布教規程細則ヲ制定セリ

右普通ス

○ 鹿兒島縣高知縣布教規程細則

第一條 鹿兒島高知兩縣ノ特別布教事務ハ曹洞宗務局之ヲ直轄ス

第二條 鹿兒島高知兩縣ノ宗務支局取締ハ兩本山布教師ヲ擁護シ特別布教ニ關シテハ布教師ト聯帶ノ責務ヲ有ス

第三條 鹿兒島高知兩縣宗務支局管内寺院ハ兩本山布教師ノ布教事業ニ翼賛盡瘁スルノ義務ヲ有ス

第四條 布教師布教ノ方法ハ專ラ宗義ヲ開演シ毀他ノ云爲ニ涉ルヘカラス

第五條 布教師ハ疾病若シクハ回避スヘカラサル事故ニ遭遇スル場合ヲ除クノ外ハ辭職スルコトヲ許サス

第六條 布教師ハ曹洞宗務局ノ許可ヲ得ズシテ二週間以上缺勤スルコトヲ得ス

第七條 布教師ハ毎月一回布教日報ヲ調製シ布教ノ狀況ヲ詳記シ曹洞宗務局ニ報告スヘシ

第八條 布教師ハ曹洞宗務局ノ許諾ヲ得ズシテ臨時ノ費用ヲ支出スルコトヲ得ス

第九條 布教地ノ道俗ニシテ布教ノ事業ヲ翼賛シ特別ノ功勞アルトキハ其事由ヲ詳記シ賞典ノ下附ヲ申請スヘシ

第十條 布教師ニシテ特ニ布教ノ成績ヲ擧ケ又ハ廢寺ヲ再興シタル場合ハ其都度賞典ヲ施行ス

第十一條 布教師其任ニ適セス又ハ一ケ年以上ヲ經過シ成績ヲ奏セサル時ハ解職スルコトアルヘシ

甲第六十四號 明治三十四年十二月十五日

全國末派寺院

今般曹洞宗議會ノ協賛ヲ經テ制定シタル別記曹洞宗宗費賦課規程ハ兩本山貫首宛下ノ允可ヲ得タリ依テ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
右普達ス

曹洞宗宗費賦課規程

第一條 曹洞宗兩本山ハ宗務教務學務ノ事業ヲ擴張シ宗門ノ興隆發達ヲ企畫スル爲メ末派寺院ニ宗費ヲ賦課ス

第二條 賦課金ハ左ノ四種ニ分ツ

寺院等級割課金

寺院地價割課金

寺院祠堂金割課金

寺院檀數割課金

第三條 寺院等級割課金ハ左表ノ通賦課ス

常恒會地

金五圓五拾錢

片法幢會地

金五圓

隨意會地

金四圓五拾錢

一等法地

金四圓

二等法地

金參圓五拾錢

三等法地

金參圓

四等法地

金貳圓五拾錢

平僧地

金七拾錢

第四條 寺院地價割課金ハ地價金百圓ニ付金六拾錢ノ割ヲ以テ賦課ス

第五條 寺院祠堂金割課金ハ金百圓ニ付金五拾錢ノ割ヲ以テ賦課ス

第六條 寺院檀數割課金ハ檀家百戸ニ付金貳圓五拾錢ノ割ヲ以テ其寺院ニ賦課ス

第七條 寺院地價割課金祠堂金割課金檀數割課金ハ毎年二月十日八月十日限寺院等級割課金ハ毎年四月十日十月十日限ニ各其半額宛ヲ組長ニ納附スヘシ

第八條 宗費賦課ノ免除又ハ猶豫ニ關スル事項ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第九條 此規程ノ施行ニ關スル細則及施行期日ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

甲第六十五號 明治三十四年十二月十五日

今般曹洞宗議會ノ協贊ヲ經テ制定シタル別記曹洞宗兩本山冥加金募集規程ハ兩本山貫首祝下ノ允可ヲ得タリ依テ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右普達ス

全國未派寺院

曹洞宗兩本山冥加金募集規程

第一條 曹洞宗兩本山ハ兩本山ノ維持及後進僧侶ノ教育布教傳道ノ擴張ヲ目的トシ未派寺院所屬ノ檀家及信徒ヨリ兩本山冥加金ヲ募集ス

第二條 兩本山冥加金ハ曹洞宗議會ノ協贊ヲ經テ左記各項ノ事業費ニ補充ス

一 兩本山維持

二 曹洞宗大學林高等中學林及四箇中學林維持

三 全國一般布教

四 軍人布教及監獄布教

五 臺灣及北海道布教

第三條 兩本山冥加金ハ曹洞宗寺院住職又ハ監寺ヲシテ其所屬檀家及信徒ノ募集ヲ擔任セシム

第四條 兩本山冥加金ハ一箇年金六錢ヲ以テ一口ト爲シ檀家一戸ニ對スルノ募集額トス信徒ノ募集額ハ其志趣ニ任ズ檀家ニシテ二口以上ヲ義納スル者又ハ一口ニ滿タサル者アル時ハ以大補小ノ法ニ依リ戸口平均額ニ達セシムヘシ

第五條 寺院住職又ハ監寺ハ其所屬檀家及信徒ニ對シ適宜ノ方法ヲ以テ冥加金ヲ募集シ前期ハ六月十

日限後期ハ十二月十日限ニ之ヲ組長ニ納附スヘシ

第六條 兩本山ハ冥加金義納ノ檀家信徒ニ酬ユル爲メ左記ノ事業ヲ舉行ス

一 第二條各項ニ規定スル兩本山ノ維持及僧侶教育並ニ國民布教ヲ爲スコト

二 兩本山及各學林並ニ全國未派寺院ニ於テ毎日法要ヲ勤修シ義納者祖先累代ノ冥福ヲ資助シ及義納者現當兩益ノ祈願ヲ爲スコト

三 兩本山ニ於テ毎年一月特ニ大般若經ヲ轉讀シテ義納者ノ爲メニ家道興隆ヲ祈禱シ毎年七月特ニ大施餓鬼會ヲ修行シテ義納者祖先累代ノ追福ヲ爲スコト

第七條 正當ノ事故ヲクシテ募集ヲ怠ル時ハ當該寺院住職又ハ監寺ハ其檀家ノ戸口ニ該當スル冥加金ヲ代納スルノ義務ヲ有ス

第八條 寺院或ハ檀家又ハ寺檀共ニ天災地變或ハ火災等ノ變故ニ罹リタル場合ハ其災害ノ程度ニ應シ一箇年以上五箇年以下ノ範圍ニ於テ冥加金募集ノ義務ヲ免除ス

第九條 此規程ノ施行ニ必要ナル細則ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第十條 此規程ノ施行期日ハ宗令ヲ以テ之ヲ定ム

甲第六十六號 明治三十四年十二月十五日

全國未派寺院

今般曹洞宗議會ノ協賛ヲ經テ制定シタル別記曹洞宗宗費徵收規程ハ兩本山貫首祝下ノ允可ヲ得タリ依テ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
右普達ス

曹洞宗宗費徵收規程

第一條 曹洞宗寺院等級割課金寺院地價割課金寺院祠堂金割課金寺院檀數割課金及兩本山冥加金ノ徵收ハ總テ此規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 寺院等級割課金寺院地價割課金寺院祠堂金割課金寺院檀數割課金及兩本山冥加金ノ納期ヲ定ムルコト左ノ如シ

種目	納期	
	前	後
寺院地價割課金	組長ニ納附期限ニ進達期限送納期限	組長ニ納附期限ニ進達期限送納期限
寺院祠堂金割課金	二月十日	八月十日
寺院檀數割課金	二月十五日	八月十五日
寺院等級割課金	四月十日	十月十日
兩本山冥加金	六月十日	十二月十日
	六月十五日	十二月十五日
	六月廿五日	十二月廿五日
	十月十五日	十月廿五日
	十月廿五日	十二月二十五日

第三條 組合組長ハ第二條ニ依リ其所屬寺院ヨリ之ヲ徵收シ期限内ニ於テ管轄曹洞宗務支局ニ進達ス

ヘシ

第四條 曹洞宗務支局取締ハ第二條ニ依リ前條進達ノ宗費ヲ纏集シ期限内ニ於テ曹洞宗務局財務部ニ送納スヘシ

第五條 曹洞宗務局財務部ハ前條送納ノ宗費ヲ受領シタル後五日以内ニ於テ曹洞宗務支局ヲ經由シテ各寺院納金者ニ領收證ヲ送附ス其領收證ニハ財務部長記名印取扱者ノ認印ヲ捺ス曹洞宗務支局取締又ハ會計及組合組長ハ其納金者ニ對シ假領收證ヲ交附スヘシ

第六條 納金者ハ其納金シタル日ヨリ四十日以上ニ涉ルモ曹洞宗務局財務部ノ領收證ニ接セサル時ハ直ニ財務部ニ其納否ヲ照會スヘシ

第七條 規定ノ納期ヲ經過スルモ納附セサル者アル時ハ組合組長ハ直ニ納附ノ日時ヲ定メタル督促狀ヲ發スヘシ曹洞宗務支局ニ進達スヘキ期日ニ後ル、時ハ其旨曹洞宗務支局ニ上申スヘシ

第八條 曹洞宗務支局取締ハ曹洞宗務局ニ送納スヘキ期日ニ至ルモ納附セサル者アル時ハ其旨曹洞宗務局財務部長ニ上申スヘシ

第九條 怠納十五日以上ニ涉ル時ハ納金額ニ對スル十分一ノ懺怠金ヲ附加徴收ス

第十條 怠納三十日以上ニ涉ル時ハ組合組長ハ曹洞宗務支局ノ指揮ヲ承ケ督促員ヲ特派シテ之ヲ徴收スヘシ此場合ニ於テハ納金額ニ對スル十分二ノ懺怠金ヲ附加徴收ス

特派員ノ旅費滞在費ハ怠納者ノ支辨トス

第十一條 前條ノ手續ヲ運フモ猶納附セサル時ハ曹洞宗務支局取締ハ曹洞宗務局財務部長ニ上申シ同時ニ監事ニ移牒シテ曹洞宗務局ニ具狀ノ要求ヲ爲スヘシ

第十二條 曹洞宗務局ハ監事ノ具狀ニ依リ其實事ヲ審査シテ重キハ學級收奪ノ警誠處分ニ附シ輕キハ住職罷免ノ警誠處分ニ附ス

第十三條 怠納處分未済中ハ怠納者ニ關スル叙任及諸願ヲ取扱ハサルコトアルヘシ

第十四條 怠納者第十二條ノ處分ヲ受ケタル場合又ハ失踪或ハ死亡ノ場合ハ當該寺院ノ後住又ハ監寺ヲシテ之ヲ辨償納附セシム

第十五條 曹洞宗務支局取締及會計又ハ組合組長ニ於テ徴收シタル賦課金又ハ各種ノ納金ヲ過誤怠慢ニ依リ紛失シタル時ハ之ヲ辨償セシメ若シ貸借又ハ使用流用シタル時ハ重キハ學級收奪ノ警誠處分ニ附シ輕キハ住職罷免ノ警誠處分ニ附シ及該徴收金ノ全額ヲ辨償セシム

第十六條 宗費徴收ニ關スル細則ハ宗令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 此規程ノ施行期日ハ宗令ヲ以テ之ヲ定ム

甲第六十七號 明治三十四年十二月二十五日

全國末派寺院

曹洞費賦課規程施行細則別記ノ通之ヲ定ム

右普達ス

曹洞宗宗費賦課規程施行細則

第一條 曹洞宗宗費ハ曹洞宗宗費賦課規程第二條ニ依リ之ヲ賦課ス

第二條 寺院等級割課金、寺院地價割課金、寺院祠堂金割課金、寺院檀數割課金ハ甲寺ト乙寺ト以大補小スルコト得ス

第三條 寺院等級割課金、寺院地價割課金、寺院祠堂金割課金、寺院檀數割課金ヲ賦課スルノ標準ハ當分一等法地ヨリ四等法地マテハ寺院等級簿ニ依リ法地及平僧地ハ寺籍財産明細帳ニ依ル

第四條 寺院祠堂金ト稱スルハ維持金積立金等何等ノ名稱ヲ以テスルモ元金ヲ据置キ利子ヲ以テ年度收入ニ充ツルモノハ總テ寺院祠堂金ニ攝ス

第五條 規程第五條寺院祠堂金割課金百圓ニ付トアルハ元金額ヲ指稱スルモノトス

甲第六十八號 明治三十四年十二月二十五日

全國未派寺院

曹洞宗兩本山冥加金募集規程施行細則別記ノ通之ヲ定ム

右普達ス

曹洞宗兩本山冥加金募集規程施行細則

第一條 兩本山冥加金ハ曹洞宗兩本山冥加金募集規程第四條ニ依リ之ヲ募集ス

第二條 檀家ニシテ冥加金二口以上ヲ義納スル者ト其一口ニ滿タサル者トノ以大補小ハ當該寺院ノ檀家間ニ限ルヘキモノニシテ其不足額ヲ他寺院ノ檀家ニ及ホスコトヲ得ス

第三條 信徒ノ冥加金ハ素ヨリ志趣ニ任スヘキモ及フヘキ限リ其募集ニ盡力スヘシ

第四條 兩本山冥加金ヲ募集スル檀數ノ標準ハ一等法地ヨリ四等法地マテハ當分寺院等級簿ニ依リ法地及平僧地ハ寺籍財産明細帳ニ依ル

第五條 規程第七條ニ規程セル正當ノ事故トハ同第八條ニ定メタル場合又ハ檀家ノ内少分ノ資産ヲモ有セサル極貧者及一家ノ内獨立自活ニ堪ヘサル老若幼者若クハ廢疾者等ノミニシテ當該寺院ヨリ町

村長又ハ區長ノ證明ヲ得テ曹洞宗務局財務部長ニ願出テ募集免除ヲ許可セラレタル者ニ限ル

第六條 檀家ニシテ冥加金ヲ義納スルニ付一箇年六錢以上ノ利子ヲ生スヘキ元金一時ニ融出シ寺檀ノ協議ニ依リ確實ナル方法ヲ以テ之ヲ積立置キ年々其利子ヲ以テ冥加金ニ充ツルコトヲ得但一箇寺ノ檀家ニシテ一時積立金ヲ爲ス者ト其都度義納スル者トノ二様アルハ素ヨリ妨ケナシ

第七條 兩本山冥加金ノ納期ハ毎年六月十二月ノ二回ナレトモ寺檀協議ニ依リ便宜上之ヲ六月ノ一回ニ募集シ又ハ毎月若クハ隔月等ニ分收シ置キ其納期ニ納附スルモ妨ケナシ

甲第六十九號 明治三十四年十二月二十五日

全國末派寺院

曹洞宗宗費徵收規程施行細則別記ノ通之ヲ定ム
右普通ス

曹洞宗宗費徵收規程施行細則

第一條 寺院等級割課金、寺院地價割課金、寺院祠堂金割課金、寺院檀數割課金、及兩本山冥加金ノ納期ハ曹洞宗宗費徵收規程第二條ニ依リ之ヲ徵收ス

第二條 前條ノ宗費ヲ徵收スル爲メ曹洞宗務局財務部ハ豫メ別記第一號ヨリ第三號ニ至ル宗費領納證用紙ヲ交附ス

第三條 宗費領納用紙ノ内別記第一號ハ寺院地價割課金寺院祠堂金割課金寺院檀數割課金ノ記號トシ第二號ハ寺院等級割課金ノ記號トシ第三號ハ兩本山冥加金ノ記號トス

第四條 曹洞宗務局財務部ニ於テ宗費領納證用紙ヲ交付スルニ當リ各種課金共(甲)ヨリ(戊)ニ至ルマテノ記號ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ分ツ

一 財務部ハ最初各曹洞宗務支局ニ對シ(乙)ヨリ(戊)ニ至ルマテノ用紙ヲ接續ノ儘交附ス但(甲)ト(乙)トノ切取線ニハ豫メ財務部ノ割印ヲ捺ス

二 曹洞宗務支局ニ於テ前項ノ用紙ヲ受領シタル時ハ(乙)ト(丙)トノ切取線ニ宗務支局ノ割印ヲ捺

シ(丙)ヨリ(戊)ニ至ルマテノ用紙ヲ接續ノ儘各組合組長ニ交附スヘシ

三 組合組長ニ於テ前項ノ用紙ヲ受領シタル時ハ(丁)ト(戊)トノ切取線ニ組長ノ割印ヲ捺シ(戊)納金證用紙ヲ組内各寺院ニ配附シ納期內ニ該用紙ニ月日記入記名調印シテ之ニ金額ヲ添ヘ納附セシムヘシ

四 組合組長ハ前項ノ納金及(戊)納金證ヲ受領シタル時ハ(丙)ト(丁)トノ切取線ニ組長ノ割印ヲ捺シ及(丁)ニ受領月日ヲ記入シ且組長ノ捺印ヲ捺シ規程第五條ノ末項ニ依リ金額ト引換ニ(丁)假領收證ヲ其納金者ニ交附スヘシ

五 組合組長ハ前項ノ假領收證ヲ交附シタル後(丙)留置證ニ受領月日ヲ記入シ更ニ宗務支局ヘ納附シタル月日ヲ記入シ之ヲ組長ノ手許ニ留置キ別紙第一號書式ニ依リ組内納金對照表ヲ作り之ニ該總金額ト(戊)納金證トヲ添ヘ規則第三條ニ依リ納期內ニ宗務支局ニ進達スヘシ

六 宗務支局取締ハ前項ノ納金手續ヲ得タル時ハ(乙)取締留置證ニ受領月日ヲ記入シ更ニ管内ノ納金ヲ一纏トシテ財務部ヘ納附シタル月日ヲ記入シ之ヲ取締ノ手許ニ留置キ別紙第二號書式ニ依リ管内納金對照表ヲ作り之ニ該總金額ト(戊)納金證トヲ添ヘ規程第四條ニ依リ納期內ニ曹洞宗務局財務部ニ送納スヘシ

七 曹洞宗務局財務部長ハ前項ノ納金手續ヲ得タル時ハ規程第五條ニ依リ(甲)領收證ヲ送附ス

第五條 別記宗費領納證ノ内(戊)納金證ハ永ク曹洞宗務局財務部ニ保存スヘキニ付(乙)取締留置證ハ取締ニ於テ(丙)組長留置證ハ組長ニ於テ各之ヲ保管シ交代ノ節ハ後任職員ニ引續クヘク(丁)假領收證ハ納附者ニ於テ財務部長ノ領收證ヲ得ルマデ之ヲ保存シ(甲)財務部長ノ領收證ハ長ク其寺院ニ保存スヘシ

第七條 別記宗費領納證ノ切取線ニ押捺スヘキ宗務支局及組合組長ノ割印ハ成ルヘク左右ノ文字ニ懸ラサルヲ要ス若シ割印ノ調製ヲ爲シ得サル向ハ該取扱者ノ認印ヲ以テ之ニ代ユルモ妨ケナシ

○第一號書式

何縣第何宗務支局管内第何組宗費納金對照表

- 一金何百何拾何圓何拾何錢何厘 何寺外何寺分地價割課金
- 一金何百何拾何圓何拾何錢何厘 何寺外何寺分祠堂金割課金
- 一金何百何拾何圓何拾何錢何厘 何寺外何寺分檀數割課金
- 合計金何百何拾何圓何拾何錢何厘也

右合計金額別紙各寺院明治何年度^前後^後期戊戌號納金證相添納附候也

明治何年八月十五日

右第何組組長

何 誰 印

何縣第何宗務支局取締何誰殿

(寺院等級割課金、兩本山冥加金納附ノ時モ此書式ニ準ス)

○第二號書式

何縣第何宗務支局管内寺院宗費納金對照表

- 一金何百何拾何圓何拾何錢何厘 寺院地價割課金
- 一金何百何拾何圓何拾何錢何厘 寺院祠堂金割課金
- 一金何百何拾何圓何拾何錢何厘 寺院檀數割課金
- 合計金何千何百何拾何圓何拾何錢何厘

右常管内寺數何拾何寺分前記宗費金額明治何年度^前後^後期別紙各寺院戊戌號納金證相添今般納附候ニ付對照ノ上收受相成度候也

明治何年八月廿五日

右何縣宗務支局取締 何 誰 印

曹洞宗務局財務部長何誰殿

(寺院等級割課金、兩本山冥加金納附ノ時モ此書式ニ準ス)

第壹號(甲)領收證

一金 寺院地價制課金
一金 寺院祠堂金制課金
一金 寺院檀數制課金

右明治三十何年度^{前期}後期分正ニ領收候也

曹洞宗務局

明治三十何年何月何日 財務部長 何 誰
何 寺

第壹號(乙)取締留置證

一金 寺院地價制課金
一金 寺院祠堂金制課金
一金 寺院檀數制課金

右明治三十何年度^{前期}後期分

明治三十何年何月何日 組長ヨリ受領
明治三十何年何月何日 財務部へ送納

納金者 何 組
何市町何寺住職 何 誰

(本表以下ハ紙幅ノ都合上横列ニ挿入ス)

第壹號(丁)假領收證

一金 寺院地價制課金

一金 寺院祠堂金制課金

一金 寺院檀數制課金

右明治三十何年度^{前期}後期分假領收候也

何支局何組

明治三十何年何月何日 組長 何 誰

何寺住職 何 誰

第壹號(丙)組長留置證

一金 寺院地價制課金

一金 寺院祠堂金制課金

一金 寺院檀數制課金

右明治三十何年度^{前期}後期分

明治三十何年何月何日 納金者ヨリ受領

明治三十何年何月何日 宗務支局へ進達

納金者 何市町何寺住職 何 誰

第三號(戊)納金證
 一金 寺院等級割課金
 右明治三十何年度^{後期}分正三納附候也
 何支局何組何市町
 明治三十何年何月何日 何寺住職 何 誰
 財務部長 何 誰殿

第二號(甲)領收證
 一金 寺院等級割課金
 右明治三十何年度^{後期}分正三領收候也
 曹洞宗務局
 明治三十何年何月何日 財務部長 何 誰
 何 寺

第二號(乙)取締留置證
 一金 寺院等級割課金
 右明治三十何年度^{後期}分
 明治三十何年何月何日 組長ヨリ受領
 明治三十何年何月何日 財務部へ送納
 納金者 何 組
 何市町何寺住職 何 誰

第二號(戊)納金證
 一金 寺院等級割課金
 右明治三十何年度^{後期}分正三納附仕候也
 何支局何組何市町
 明治三十何年何月何日 何寺住職 何 誰
 財務部長 何 誰殿

第二號(丁)假領收證
 一金 寺院等級割課金
 右明治三十何年度^{後期}分假領收候也
 何支局何組
 明治三十何年何月何日 組長 何 誰
 何寺住職 何 誰殿

第二號(丙)組長留置證
 一金 寺院等級割課金
 右明治三十何年度^{後期}分
 明治三十何年何月何日 納金者ヨリ受納
 明治三十何年何月何日 宗務支局へ進達
 納金者 何市町何寺住職 何 誰

第三號(丙)組長留置證
 一金 兩本山冥加金
 右明治三十何年度^{後期分}
 明治三十何年何月何日 納金者ヨリ受領
 明治三十何年何月何日 宗務支局へ進達
 納金者 何^{特選}市^{中等}町 寺住職 何 誰

第三號(乙)取締留置證
 一金 兩本山加金
 右明治三十何年度^{後期分}
 明治三十何年何月何日 組長ヨリ受領
 明治三十何年何月何日 財務部へ送納
 納金者 何 組
 何^{特選}市^{中等}町 何 寺住職 何 誰

第三號(甲)領收證
 一金 兩本山冥加金
 右明治三十何年度^{後期分}正三領收候也
 曹洞宗務局
 明治三十何年何月何日 財務部長 何 誰
 何 寺 誰

第三號(丁)假領收證
 一金 兩本山冥加金
 右明治三十何年度^{後期分}假領收候也
 何支局何組
 明治三十何年何月何日 組長 何 誰
 何寺住職 何 誰

第三號(戊)納金證
 一金 兩本山冥加金
 右明治三十何年度^{後期分}正三納附仕候也
 何支局何組何^{特選}市^{中等}町
 明治三十何年何月何日 何寺住職 何 誰
 財務部長 何 誰

甲第七十號 明治三十四年十二月二十五日

全國末派寺院

曹洞宗務局職員事務假章程左ノ通之ヲ定ム

右普達ス

曹洞宗務局職員事務假章程

第一條 曹洞宗務局職員ハ専ラ勤勉誠實和協推讓ヲ旨トシ細大ノ事務ニ就キ總テ其實守ヲ全フスヘシ
第二條 曹洞宗務局職員ハ常ニ公明嚴正ヲ旨トシ兩本山又ハ末派寺院ニ對シ苟モ甲乙偏私ノ措置ニ涉ルヘカラス

第三條 曹洞宗務局職員ノ任期ハ總テ滿三ケ年トス但執務ノ成績ニ依リ繼勤ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 曹洞宗務局總務ノ位次ハ兩本山ノ位次ニ依リ各部長以下ノ位次總テ叙任ノ等級又ハ叙任ノ先後又ハ從前奉職ノ位次ニ依ル若シ同等ナルトキハ法臘ノ高下ニ依ル

第五條 總務ハ各部課ノ事務ニ就キ關係ヲ分明ニシ疏通ヲ主要トシ局務ヲ統制統一スヘシ

第六條 總務ハ定時又ハ臨時ニ各部課主管ノ執務狀況ヲ監査シ及事務ノ緩急輕重ヲ斟酌權衡シ處理ヲ命令スルコトヲ得

第七條 總務ハ各部課主管ノ事務ニ就キ制規ニ反スル者又ハ制規ニ示サ、ル事項ニシテ妥當ヲ得サル

モノハ理由ヲ指示シ其立案ヲ修正シ又ハ改更セシムルコトヲ得

第八條 總務ハ平時又ハ臨時ニ各部課事務ノ繁閑ヲ調査シ適當ノ方法ヲ以テ甲乙執務ノ援助ヲ命スヘシ

第九條 總務ハ曹洞宗務局規程第十六條ニ關スル場合又ハ各部長ヨリ要求アル場合ハ局議ヲ開設スヘシ

第十條 宗門重大ノ事件ニハ總務ハ管長ニ稟申シテ各部課ノ職員ヨリ適當ノ員數ヲ定メ委員ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ總務ハ互選ヲ以テ委員長ト爲リ事務ヲ處理スヘキモノトス

第十一條 總務ノ甲乙間ニ意見ヲ異ニスルコトアルトキハ兩本山貫首ノ裁制ヲ受クヘシ

第十二條 部長ハ部内ノ職員ヲ指揮監督シ部内ノ事務ヲ統一處理スヘシ

第十三條 一部主管ノ事務ニシテ其事項ノ直接他部ニ關係ヲ有スルトキ又ハ間接重要ノ關係アリト認メタルトキハ當該他部ノ妥協ヲ經テ之ヲ處理スヘシ

第十四條 部長ハ其主管ニ屬スル事務ニ關シテハ第六條第七條ニ規定スル總務ノ職權ヲ主事ニ準用スルコトヲ得

第十五條 宗門重要ノ事件ニ關シ總務ト部長ト其意見ヲ異ニシ妥協ヲ得サル場合ハ部長ハ二名以上ノ同意ヲ得管長ニ具申スルコトヲ得

第十六條 主事ハ部長ノ指揮命令ヲ承ケ部内ノ事務ヲ受理シ審査シ及立案シ又ハ處理スルモノトス

第十七條 主事ハ部内主管ノ事務ニ關シ曹洞宗務局限リニ於テ部長ト聯帶ノ責ニ任ス

第十八條 財務部ノ部長又ハ主事ニ於テ急慢ニ依リ主管ノ金銀ヲ紛失シタルトキハ辨償ノ義務ヲ有ス

但不可抗力ニ依リ紛失シタル場合ハ此限ニ在ラス

第十九條 主事其主管ノ事務ニ於テ部長ト意見ヲ異ニスル場合ハ總務ニ具狀シ處決ヲ要求スルコトヲ得

第二十條 部長又ハ主事ハ通常ノ事務ニ限リ臨機旨ヲ上級書記ニ授ケ審査立案セシムルコトヲ得此場
合ニ於テハ部長又ハ主事ハ其責ニ任スルモノトス

第二十一條 各課ノ主事ハ總務ノ指揮命令ヲ承ケ課内全般ノ事務ヲ受理シ審査シ及立案シ又ハ處理ス
課内全般ノ事務ニ關シテハ曹洞宗局限リニ於テ各其責ニ任ス

第二十二條 書記ハ部長又ハ主事ノ命ヲ承ケ所屬部課ノ文書ヲ調製シ整理シ及保管シ並ニ文書ニ關ス
ル事務ヲ處辨ス

第二十三條 上級書記ハ旨ヲ下級書記ニ授ケ文書ニ關スル事務ヲ處辨セシムルコトヲ得

第二十四條 淨書シタル文書ハ當該書記ニ於テ曹洞宗務局ノ内外ニ對シ其責ニ任ス

第二十五條 一切ノ公文書ハ總テ記録課ニ受附之ヲ各部課ノ受附簿ニ分類記入シ且番號ヲ附シテ各部

課ノ主事ニ交附シ受附簿記入事項ノ欄内ニ當該主事ノ捺印ヲ受ケ置クヘシ

第二十六條 各部課ニ於テ公文書ヲ受理シタルトキハ其緊急ヲ要スルモノハ直ニ審案處決シ其通常ナ
ルモノハ五日以内ニ審案處決シ其重要複雑ナル者ハ相當ノ期間ニ於テ審案處決スヘシ但緊急事件又
ハ通常事項ト雖モ直ニ處決スヘカラスト認ムル場合ハ部内ノ申合セヲ以テ處決ヲ延期スルコトヲ得

第二十七條 前條ノ案件又ハ各部課ヨリ發議提出シタル案件ハ總テ判議紙ニ依リ關係部課ノ回覽ニ附
シ可否ノ意見ヲ徵シ總務ヲ經テ管長ノ允裁ヲ受クルモノトス

第二十八條 前條管長ノ允裁ヲ得タルモノハ主管部課ノ部長又ハ主事之ヲ檢閱シ書記ヲシテ之ヲ淨寫
セシメ記録課ニ交附ス記録課ニ於テハ其淨寫シタル書面ト案書ニ削印ヲ捺捺シ受附簿又ハ他ノ關係
帳簿ニ處決ノ要旨ト決行ノ月日ヲ記入シ淨寫シタル書面ヲ封裝シ之ヲ發送スヘシ但前條各部課ヨリ
發議シタル案件ニシテ文書ニ依ラサルモノハ其主管部課ニ於テ執行スヘシ

第二十九條 財務部一定ノ通常案件及文書課ニ於ケル宗報ニ關スル通常案件ハ第二十七條ノ規定ニ依
ラス當該部課ニ於テ恰當ノ處決ヲ爲スコトヲ得

第三十條 第九條規定ノ會議ヲ開ク場合ハ總務ハ豫メ議案ヲ調製シ又ハ議件ヲ指示シ日時ヲ定メテ之
ヲ各部ノ部長ニ報告スヘシ但緊急ノ事件ニ接シ報告スルノ暇ナキトキハ此限ニ在ラス

第三十一條 前條會議ノ正副議長ハ總務交番ヲ以テ之ニ任シ議事ヲ整理ス議事ハ決テ多數ニ採ル議事

中意見數派ニ分レ決定セサルトキハ總務ハ議事ヲ中止シ適當ノ期間ニ於テ再議ヲ開クコトヲ得但緊急ヲ要スル事件ニシテ再議ニ附スルコト能ハサル場合ハ狀ヲ管長ニ具シ適法ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 曹洞宗務局各部課ノ用度ハ總テ財務部ニ於テ之ヲ處辨ス

第三十三條 甲乙各部課ノ間ニ於テ相互ニ文書又ハ記録ノ調査閱覽ヲ要求スルコトアルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十四條 曹洞宗務局ノ執務時間ヲ定ムルコト左ノ如シ但執務ノ繁閑ニ依リ臨時時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

一月八日ヨリ三月三十一日マテ午前九時ヨリ午後三時マテ

四月一日ヨリ七月十日マテ午前八時ヨリ午後二時マテ

七月十一日ヨリ九月十日マテ午前七時ヨリ正午十二時マテ

九月十一日ヨリ十月十日マテ午前八時ヨリ午後二時マテ

十月十一日ヨリ十二月二十八日マテ 午前九時ヨリ午後三時マテ

第三十五條 曹洞宗務局ノ休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ但執務ノ繁劇ナルトキハ休業セサルコトアルヘシ

一月一日ヨリ七日マテ 孝明天皇祭 紀元節 春季皇靈祭ノ神武天皇祭 七月十四日ヨリ十六日マ

テ 秋季皇靈祭 十月十五日 神嘗祭 天長節 新嘗祭 十二月二十八日ヨリ三十一日マテ 兩祖

降誕會 兩祖忌 達祖忌 三佛會 土曜日午後 日曜日

第三十六條 曹洞宗務局職員ニシテ缺勤二月以上ニ及フトキハ總務ノ許可ヲ受クヘシ一週間以上ニ及フトキハ管長ノ允許ヲ受クヘシ

第三十七條 曹洞宗務局職員ニシテ事故ニ依リ缺勤十五日以上ニ及フトキハ月俸ノ半額ヲ減ス但師僧父母ノ疾病ヲ慰問シタル證憑ヲ有スル場合又ハ自分疾病ニ罹リタル場合ハ此限ニ在ラス

第三十八條 曹洞宗務局各部ニ職員勤怠簿ヲ調製シ職員日ノ勤怠ヲ記シ置クヘシ

第三十九條 曹洞宗務局各部ハ執務月報ヲ調製シ翌月五日限總務ノ證明ヲ經テ之ヲ管長ニ呈出スヘシ

第四十條 曹洞宗務局職員ニシテ怠慢其職務ヲ盡サ、ル實跡アルトキ又ハ曹洞宗務局規程第二十條及第二十一條ニ反シタルトキ又ハ執務ノ事項ニ關シ其關係者ヨリ私ニ請托ヲ受ク或ハ私ニ文書ヲ往復シタルトキ又ハ兩本山ノ協和ヲ害スルノ處アルトキハ其情狀ヲ審理シ輕キハ譴責又ハ減俸ノ處分ニ附シ重キハ免職ノ處分ニ附ス

第四十一條 曹洞宗務局各部課限執務内規ヲ定メタルトキハ總務ノ承認ヲ經テ之ヲ各部課ニ通告シ置クヘシ

第四十二條 紀綱寮職員第二護法會職員ノ執務方法ハ各其規程ニ依ル

甲第七十一號 明治三十四年十二月二十七日

全國末派寺院

大本山總持寺前貫首法雲普蓋禪師豫テ御羅恙ノ處藥石其効ヲ奏セス本日東京市小石川區茗荷谷町林泉寺隱寮ニ於テ遂ニ御遷化相成タリ

本月二十九日右隱寮ニ於テ密葬ヲ修行シ茶毘式ハ追テ本山ニ於テ修行セラル
右普達ス

甲第七十二號 明治三十四年十二月二十七日

全國末派寺院

大本山總持寺前貫首法雲普蓋禪師御遷化相成候ニ付テハ末派寺院一般ハ本達受領ノ後各自哀悼ノ誠意ヲ表シ追弔法要ヲ營辨スヘシ
右普達ス

號外 明治三十四年十二月二十七日

北海道 曹洞宗務支局職員

曹洞宗各學林職員

曹洞宗議會各議員

大本山總持寺前貫首法雲普蓋禪師御遷化相成候ニ付テハ各自哀悼ノ誠意ヲ表シ本月三十日ノ日附ヲ以テ同本山ニ吊辭ヲ呈出スヘシ
右爲念示達ス

報告第五號 明治三十四年十二月廿八日

全國末派寺院

今般曹洞宗務局職員左ノ通兩本山貫首宛下ヨリ任命セラレタリ

曹洞宗務局總務	大本山永平寺執事	木田 頼光
曹洞宗務局總務	大本山總持寺執事	石川 素童
曹洞宗務局庶務部長	大本山永平寺副執事	弘津 說三
曹洞宗務局教務部長	大本山總持寺副執事	織田 雪巖
曹洞宗務局財務部長	大本山總持寺副執事	森 玉仙
曹洞宗務局人事部長	大本山總持寺副執事	村上 泰音
曹洞宗務局學務部長	大本山永平寺副執事	新井 石禪
曹洞宗務局監查部長	大本山永平寺副執事	陸 鉞巖
曹洞宗務局財務部主事	大本山總持寺副執事	冲津 元機

曹洞宗務局財務部主事	大本山永平寺副寺	大佛輔教
曹洞宗務局庶務部主事	大本山總持寺知客	伊藤覺典
曹洞宗務局庶務部主事	大本山永平寺知客	三島春洞
曹洞宗務局教務部主事	軍人布教師兼監獄布教師	芳川雄悟
曹洞宗務局學務部主事	第九師團布教師	在田如山
曹洞宗務局人事部主事	臺灣布教師	佐々本珍龍
曹洞宗務局監査部主事	曹洞宗東京中學林教授	高島養麟
曹洞宗務局內事課主事兼	大阪府第一教導副取締	鹿野金祝
曹洞宗務局外事課主事	愛知縣第一教導副取締	岩山真定
曹洞宗務局人事部主事	曹洞宗高等中學林囑托教授	栗木智堂
曹洞宗務局學務部主事	曹洞宗東京中學林囑托教授	渡邊重麟
曹洞宗務局教務部主事	泉龍寺住職	武藤彌天
曹洞宗務局監査部主事	長慶寺住職	武田範之
曹洞宗務局記録課主事兼	曹洞宗務局文書課主事	顯聖寺住職
曹洞宗務局文書課主事		

右報告ス

報告第六號 明治三十四年十二月二十八日

全國末派寺院

曹洞宗制度調査會細則第二條及第三條ニ依リ兩本山貫首親下ヨリ左ノ通其職員ヲ任命セラレタリ但願
問員ハ都合ニ依リ報告セス

委員	曹洞宗務局庶務部長	弘津 說三
委員	曹洞宗務局人事部部長	村上 泰音
委員	總寧寺住職	梅 仙英
委員	天樹寺住職	赤 澤 亮 義
委員	最勝院住職	森 川 如 常
參與員	曹洞宗務局教務部長	織 田 雪 巖
參與員	曹洞宗務局財務部長	森 玉 仙
參與員	曹洞宗務局學務部長	新 井 石 禪
參與員	曹洞宗務局監査部長	陸 鉞 巖
評議員	長興寺住職	麻 時 舌 溪
評議員	可睡齋住職	日 置 默 仙
評議員	太平寺住職	北 山 絶 三

評議員	宗岳寺住職	堀田・龍道
評議員	一雲齋住職	真川超玄
評議員	林泉寺住職	宇野默音
評議員	廣禪寺住職	其道素白
評議員	洞雲寺住職	千葉文山
評議員	江岸寺住職	高津珉恭
評議員	金剛寺住職	根松全鏡

右報告ス

報告第七號

明治三十四年十二月二十八日

全國末派寺院

今般曹洞宗議會議員ノ互選ヲ以テ菊池大仙城井一秀古賀徳山嶽岡悦安荒木磯天ノ五名曹洞宗末派總代委員ニ當選シ兩本山貫首猥下ヨリ認可狀ヲ下附セラレタリ就テハ曹洞宗議會ニ於テ末派總代委員ニ關シ決議シタルノ事項アルニ依リ明治三十五年二月一日以在滿一ヶ年間就業ヲ命セラル尙右總代委員ノ補缺員ハ大谷素順田中道圓龍澤仁應岩山真定岩井孝温西川象山真川超玄一華恩賢仲井覺乘在田如山ノ十名當選シタリ

右報告ス

報告第八號

明治三十四年十二月二十八日

全國末派寺院

明治三十四年曹洞宗務局普達全書ハ第五次曹洞宗議會議決事項及之ニ關スル各種重要ノ事項ヲ規定シタル一切ノ令達ヲ網羅蒐集シアリテ今後各學林各宗務支局ノ職員ヲ始メ盛事、組長、其他宗門各種ノ公職ヲ奉スル者ハ當然購讀ヲ要スル儀ニ付當局ハ従前ノ例ニ依リ東京市芝區露月町十八番地書肆鴻盟社今村金次郎ニ命シ明治三十五年一月十五日迄ニ出版發賣セシム但代價ハ大凡金貳拾五錢以下トシ印刷ノ實費ヲ以テ賣捌ヲ命令シ置ケリ目下印刷中ニ付出版ノ上ハ宗報ニ廣告セシム就テハ前述各職員ハ勿論末派寺院ハ精々之ヲ購求スヘシ

右報告ス

明治三十五年一月十九日印刷
 明治三十五年一月廿五日發行

(定價金二十五錢)

編輯者 兼 發行所
 東京市芝公園第七號地二番
 曹洞宗務局文書課

東京市芝公園第七號地二番
 右代表者

高井宏道

印刷者
 東京市京橋區西紺屋町廿六七番地
 山本鏡次郎

印刷所
 東京市京橋區西紺屋町廿六七番地
 株式會社 秀英舍



發賣所

東京市芝區
 露月町十八番地

鴻盟社

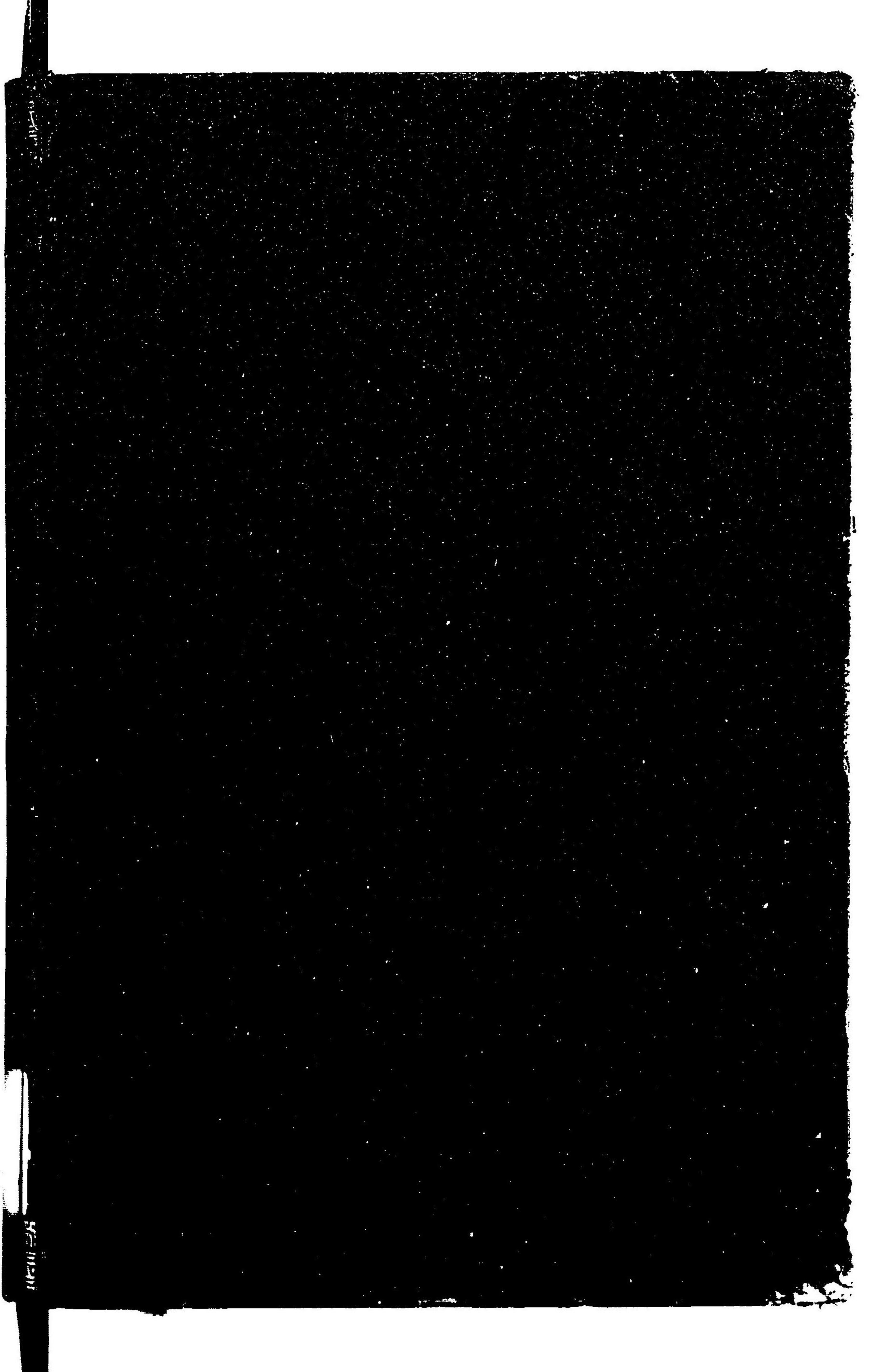
●●●●● 鴻盟社出版略書目 ●●●●●

廣告

- 佛大藏法數 全二册 定價金三十四
- 佛教字典 全二册 定價金三十四
- 標註八宗綱要 全二册 定價金三十四
- 通佛教各宗綱要 全二册 定價金三十四
- 通天台宗綱要 全二册 定價金三十四
- 通淨土宗綱要 全二册 定價金三十四
- 通日蓮宗綱要 全二册 定價金三十四
- 通真宗綱要 全二册 定價金三十四
- 列傳各宗高僧傳 全二册 定價金三十四
- 佛敎史要之日部本 全二册 定價金三十四
- 維新僧月照傳 全二册 定價金三十四
- 承陽大師御傳記 全二册 定價金三十四
- 承陽大師略記 全二册 定價金三十四
- 曹洞宗兩祖略傳 全二册 定價金三十四
- 太祖略傳 全二册 定價金三十四
- 承陽大師御一代記行狀圖 全二册 定價金三十四
- 太祖開國師行狀圖 全二册 定價金三十四
- 全釋迦承陽太祖三尊圖 全二册 定價金三十四
- 拾六羅漢圖 全二册 定價金三十四
- 十六善神小形之圖 全二册 定價金三十四
- 小倉百人一首 全二册 定價金三十四
- 曹洞宗大學林之圖 全二册 定價金三十四
- 永正法眼藏 全二册 定價金三十四
- 正法眼藏私記會本 全二册 定價金三十四
- 正法眼藏涉典續紹 全二册 定價金三十四
- 正法眼藏四部合本 全二册 定價金三十四
- 正法眼藏道心三寶私記合冊 全二册 定價金三十四
- 正法眼藏行持私記合冊 全二册 定價金三十四
- 正法眼藏功徳卷 全二册 定價金三十四
- 曹洞五位顯訣 全二册 定價金三十四
- 上法服格正 全二册 定價金三十四
- 冠學道用心集 全二册 定價金三十四
- 傍學用上聯燈錄 全二册 定價金三十四
- 日本洞上聯燈錄 全二册 定價金三十四
- 正佛傳成符 全二册 定價金三十四



316
50



40

5074

019695-003-4

40-507

曹洞宗務局普達全書

曹洞宗務局/編

M29-36

ABG-0491

